講 義 概 要

2025 年度　作業療法学科
1 年生

阪奈中央リハビリテーション専門学校
作業療法学科

《基礎分野》　＝科学的思考の基盤　人間と生活　社会の理解＝

科目名 Course title	**外国語Ⅰ（医学英語）※選択必修**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	森　拓也	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	医療分野において医療英語の理解は必要不可欠である。リハビリテーション医療分野においても例外ではない。近年、科学的根拠をもとにした治療が求められる中、その科学的根拠を示すものは国際的な論文が多い現状がある。本講義では医療英語の基礎と国際雑誌の読み方を解説し、リハビリテーション医療にかかわる論文に慣れ親しみ、読解方法を得る能力を養うことを目標とする。また、併せて、臨床業務上必要不可欠な医療英語についても学習する。		
授業計画 Course Content	１　オリエンテーション：医療英語とは臨床英語＆論文読解 ２　医療英語を用いた論文の検索方法　国際雑誌の選定 ３　Original Article（原著論文）Case Report（症例報告）Review Article（総説）とは ４　医学英語論文の種類と Title の表現　Title から読み取る論文の良し悪し ５　Abstract とは？　Informative Abstract と Indicative Abstract ６　Summary　症例報告の Summary　総説の Summary ７　Introduction の読み方 ８　Materials and Methods と Results の読み方 1 ９　Materials and Methods と Results の読み方 2 １０　Discussion の読み方 １１　Conclusion References　Acknowledgement の読み方 １２　論文を読んでみよう（グループワーク） １３　論文を読んでみよう（グループワーク） １４　臨床上必須英語・診療上常用英語 １５　総復習		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「必ず読めるようになる医学英語論文」　金原出版		
備 考 Other Comments	適宜資料を配布して授業を進める		

科目名 Course title	外国語Ⅱ（医学日本語）※選択必修	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	（日本語科教員　作業療法学科教員）	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	留学生を対象に日本語能力試験１級レベルの言語知識、読解、聴解能力の強化および１年次の解剖学、生理学、運動学の授業に進捗に合わせ基本的な医学用語の語彙力を強化することを目的とする。		
授業計画 Course Content	１　日本語能力試験Ｎ1 対策講座　言語知識_文字/語彙①＆文法① ２　日本語能力試験Ｎ1 対策講座　言語知識_文字/語彙②＆文法② ３　日本語能力試験Ｎ1 対策講座　言語知識_文法③＆読解① ４　日本語能力試験Ｎ1 対策講座　言語知識_文法④＆読解② ５　日本語能力試験Ｎ1 対策講座　読解③＆聴解① ６　日本語能力試験Ｎ1 対策講座　読解④＆聴解② ７　日本語能力試験Ｎ1 対策講座　模擬試験 ８　解剖学用語　総論 ９　解剖学用語　骨 １０　解剖学用語　関節 １１　解剖学用語　靭帯 １２　生理学用語　総論 １３　生理学用語　細胞の構造と機能　神経系 １４　生理学用語　循環器系 １５　生理学用語　呼吸器系		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	**教育学**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高木　琳太郎	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	私たちが関わってきた（関わっている）教育を考えてみることを通して、私たちがほかの人々、物事とともに生きてきた（生きている）日常・社会・世界・関係性について、立ち止まって考えてみる。		
授業計画 Course Content	１　階段のぼりと勉強 ２　階段のぼりと勉強 ３　狼に育てられた子ども ４　狼に育てられた子ども ５　養生 ６　養生 ７　「生命場」 ８　まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	レポート試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	**公衆衛生学**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	三宅　眞理	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	臨床医学が個人の疾病を対象とするのに対して、公衆衛生学は集団の健康を対象とする。衛生学および公衆衛生は人間の健康に関係するあらゆる事象を研究し健康の維持増進をはかる学問である。「公衆」はどういう集団を指すのか具体的な事象と対策、法規を学び、将来の健康づくりと疾病の予防に貢献できる力を養う。特に、公衆衛生に関する法規の領域は極めて広く、保健医療の専門職には周知が必要である。各領域について、発展の過程や仕組み、現状と対策などから講義する。 一般目標（GIO）：現代社会のおける公衆衛生の理解を深め、自らの疾病の予防と健康作りを心がけ保健医療の専門職として国民の健康増進に貢献できる力をつける。 行動目標（SBOs）： ①公衆衛生学の必要性と重要性を説明できる。 ②健康の指標について理解し、疫学・保健統計から説明できる。 ③感染症の基礎知識、予防対策、感染症法、食中毒などについて理解し予防を実践できる。 ④地域環境保全、公害、身の回りの環境衛生と健康について理解し実践できる力を養成する。 ⑤超高齢化社会における社会保障・医療介護の制度について理解を深め活用できる力を養成する。 ⑥地域保健活動、母子保健、学校保健について理解し実践できる力を養成する。 ⑦心疾患、脳卒中、糖尿病などの生活習慣病の予防理解し、健康教育が実践できる力を養成する。 ⑧精神保健福祉と産業保健のこれまでの背景と現状を理解し、保険医療の専門家として、公衆衛生活動を実践できる力を養成する。		
授業計画 Course Content	１　衛生・公衆衛生学序論 ２　保健統計・疫学 ３　感染症対策・国際保健・災害医療と健康危機管理 ４　環境保健・地域保健と保健行政 ５　母子保健・学校保健 ６　成人保健・産業保健 ７　高齢者の保健・医療・介護 ８　精神保健・障害者の保健・難病対策		
成績評価等	定期試験　６０点で合格		
教科書 Textbooks			
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	**コミュニケーション学**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	森川 あやこ 荻野 佐代子 勝村　智加	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】患者や対象者や、チーム医療を成す関係者および実習指導者との関わりに必要なコミュニケーションについて学習する。また手段としては言語・非言語を用いたコミュニケーションについて学習する。 【到達目標】 ・コミュニケーションの必要性、および場面・状況に応じたコミュニケーションの方法について説明でき、また実施できる。 ・対象者や医療福祉の関係者（実習指導者を含む）と良好な関係を築くためのコミュニケーションが実施できる。 ・患者・対象者の情報を収集するために医療面接が実施できる。		
授業計画 Course Content	１　コミュニケーションをスムーズにする土台について ２　印象の重要性 ３　聴くことの重要性 ４　自己表現の理解と演習 ５　コミュニケーションの意思疎通、情報伝達 ６　手話の基礎知識（聴覚障碍者のコミュニケーションを知る） ７　名前、家族を表してみましょう ８　数字を使って表してみましょう（疑問詞の表し方を知る） ９　住所を表してみましょう（方向、指さしの活用を知る） １０～１５　実習で必要なコミュニケーション 医療面接　傾聴実践 ※詳細は初講の際に説明		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席点、小テスト、提出物、筆記試験で総合的に評価する。		
教科書 Textbooks			
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	**情報処理学**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	徳永　怜	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	「情報処理学」では、基本的なパソコンの操作を習得し、報告書・レポートの作成やプレゼンテーションが行えるようになることを目的としています。具体的には、Word や Excel を利用した文書の作成、表計算、グラフの作成です（Power　Point を用いた資料の作成は、授業の進行状況に応じて、実施の可否を判断します）。 　授業は、パソコンを用いた実習形式で行います。課題作成に関する質問は受け付けますが、最終的には自分で Word や Excel を利用して報告書・レポートの作成ができるように、主体的に取り組むことを求めます。		
授業計画 Course Content	１　Word の基本操作（１）：基本的な文書作成 ２　Word の基本操作（２）：文書の編集 ３　Excel の基本操作（１）：データの入力・編集 ４　Excel の基本操作（２）：表の作成 ５　Excel の基本操作（３）：数式・関数の利用 ６　Excel の基本操作（４）：グラフの利用 ７　Excel の応用操作：データベースとしての利用 ８　総復習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	「課題の提出」、「単位認定試験」で評価します。 「単位認定試験」は Word、Excel を利用した実技試験を予定しています。 割合については初回の講義にて確認。		
教科書 Textbooks	授業ごとに課題プリントを配付します。		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	**心理学**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高橋　京子	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	知覚、感情など、人の様々な側面を通して、人間の心や行動を理解する心理学の基礎を学ぶ。		
授業計画 Course Content	１　オリエンテーション ２　心理学の変遷 ３　学習と行動 ４　知覚・感覚 ５　思考 ６　記憶と忘却 ７　感情 ８　欲求・動機付け ９　知能 １０　性格 １１　発達① １２　発達② １３　発達③ １４　発達④ １５　社会		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席・コメントペーパー、期末テスト		
教科書 Textbooks	「心理学・臨床心理学概論　第３版」北樹出版		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	**統計学**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	森谷　伸樹	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	作業療法の EBM に必要な統計学について学ぶ。統計処理の基礎を学ぶこと、作業療法士国家試験に頻出の知識について触れること、研究内容に応じて統計処理を選択できることを到達目標とする。		
授業計画 Course Content	１　統計学の基礎、データの尺度・特性値・グラフ ２　推定と検定の基礎、2 標本の差の検定ーパラメトリック法(1) ３　1 標本の差の検定ーパラメトリック法(2)、差の検定ーノンパラメトリック法(1) ４　相関、回帰分析 ５　重回帰分析、分割表の検定 ６　一元配置分散分析、反復測定の分散分析 ７　信頼性係数、多重ロジスティック回帰分析 ８　検査値の判断指標、まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験を行う		
教科書 Textbooks	リハビリテーション統計学　　中山書店		
備 考 Other Comments	講義を中心に実施する。		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員７年の経験を有する。		

科目名 Course title	**人間工学**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	坂本　清美	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	居住空間や生活機器を使いやすく安全で快適につくることが、今強く求められている。老若男女、少数派・多数派を問わず、豊かで健康的な生活を送るためには必要不可欠なことである。それを実現するためには、こうした空間や機器が、人間そのものに適合するようにデザインされなければならない。 人間工学はそれを支援する学問分野である。すなわち、生活を営む人間の形態や生理的心理的機能を明らかにし、それを機器や環境の設計に結び付けていくことを目的としている。その点、これからの設計者やデザイナーに必要不可欠な素養といえる。 講義では、居住空間や住宅設備・生活機器等を設計していく上でぜひ考慮しなければならない人間の諸機能・諸特性について論じ、設計のガイドラインや方法を紹介していく。毎回 1 つのテーマをとりあげ解説していく。		
授業計画 Course Content	１　人間工学とは何か:人間工学の対像事例、必要性、学問領域 ２　人間工学の具体化例(イスのデザイン) ３　人体寸法とデザイン:人間の寸法と形の理解 ４　運動機能と身体負担:筋肉の機能や特性の理解 ５　感覚の種類と視覚機能:盛覚の種類、及び視覚機能の理解 ６　視覚の生理と心理:視覚や認知の特性の理解 ７　認知人間工学:わかりやすさのデザイン授業計画 ８　ヒューマンエラーと安全設計:生活機器の事故事例の紹介と安全設計 ９　疲労･ストレスと快適性デザイン １０　ユニバーサルデザインと人間工学(1) １１　ユニバーサルデザインと人間工学(2):高齢者の UD、UX(ユーザエクスピアレンス) １２　情報デザインと人間工学 １３　人間工学的デザインの実際:機器,住宅,オフィス １４　人間工学の今後 １５　まとめ(第 1 回目～14 回目)		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	単位認定試験 100% 課題は選択肢問題の予定 選択肢問題は 20 問あり、配点は各 5 点です。合計で 100 点		
教科書 Textbooks	初めて学ぶ人間工学(2016/1/1) 出版社:理工図書 著者:岡田 明、後藤 義明、八木 佳子、他		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	**物理学**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	大又　巧也	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	物体に力を加えると、物体は力の大きさに比例し、質量に反比例する大きさの加速度で運動が変化します。物体を人体として考えることで自分が動いたり他人を動かしたりする事と力の関係がわかるようになればリハビリテーションに役立ちます。物理の法則を使って見えない力を知り、２つ以上の力を組合せたり、又力を無効にすることを、実際に日常の活動として理解できるようになることがねらいです。		
授業計画 Course Content	１　物理量とその表し方、ベクトルとスカラー ２　いろいろな運動と力 ３　力のつり合いと運動の法則 ４　物体の重心と回転運動 ５　力のモーメント① ６　力のモーメント② ７　運動、仕事のエネルギー ８　演習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「PT・OT ゼロからの物理学」羊土社		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	**保健体育**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	山口 典孝・森山 琢磨	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	自身の現体力を把握し、運動方法や運動の意義などを考える。さらには生活習慣病と運動の重要性を理解し、生活習慣病予防に役立てていく。		
授業計画 Course Content	１　オリエンテーション、ドッチボール ２　ショートテニス ３　卓球 ４　バスケットボール ５　ショートテニス ６　バレーボール ７　バスケットボール ８　ショートテニス ９　ショートテニス １０　卓球 １１　フットサル １２　卓球 １３　ショートテニス １４　ショートテニス １５　フットサル		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	活動点		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		

《専門基礎分野》　＝人体の構造と機能と心身の発達＝

科目名 Course title	**解剖学Ⅰ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高森　康晴	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	解剖学は医療を志す者にとって基本の学問であり、人体の構造を理解することは必須である。解剖学Ⅰではヒトの骨格と関節、靭帯について講義する。 骨学の総論では骨の基本的構造や発生、リモデリングなどについて、各論では頭蓋骨～足の骨までを順々に解説する。 関節、靭帯の総論ではそれぞれの基本的構造や分類などについて、各論では頭蓋骨～足の連結までを順々に解説する。		
授業計画 Course Content	１　骨学総論１ ２　骨学総論２ ３　頭蓋１ ４　頭蓋２ ５　脊柱１ ６　脊柱２ ７　胸郭１ ８　上肢１ ９　上肢２ １０　上肢３ １１　下肢１ １２　下肢２ １３　下肢３ １４　関節、靭帯の総論１ １５　関節、靭帯の総論２ １６　頭蓋の連結 １７　脊柱の連結 １８　胸郭の連結 １９　上肢の連結１ ２０　上肢の連結２ ２１　上肢の連結３ ２２　下肢の連結１ ２３　下肢の連結２		
成績評価	定期試験：１００％		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学　第５版」　医学書院		
備 考 Other Comments	必要に応じて骨格模型を使用		

科目名 Course title	**解剖学Ⅱ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高森　康晴	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／２単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	作業療法士として必要かつ重要な筋系および神経系の基本構造を学び、それらのはたらきや相互作用・相互関係を理解する。 筋系の一般的な構造を総論で解説し、次に主要な筋の起始、走行、停止、作用、支配神経について詳しく講義する。 神経系については中枢神経と末梢神経の基本的な構造とはたらきを述べ、特に伝導路において各神経間のつながりについて詳しく講義する。		
授業計画 Course Content	１　筋系総論 ２　筋系　体幹１　頭部 ３　筋系　体幹２　頸部 ４　筋系　体幹３　胸部 ５　筋系　体幹４　腹部 ６　筋系　体幹５　背部 ７　筋系　上肢１　上肢帯・上腕 ８　筋系　上肢２　前腕１ ９　筋系　上肢３　前腕２ １０　筋系　上肢４　手 １１　筋系　下肢１　下肢帯 １２　筋系　下肢２　大腿 １３　筋系　下肢３　大腿・下腿 １４　筋系　下肢４　下腿 １５　筋系　下肢５　足 １６　神経系　総論 １７　神経系　中枢１ １８　神経系　中枢２ １９　神経系　中枢３ ２０　神経系　末梢１ ２１　神経系　末梢２ ２２　神経系　末梢３ ２３　神経系　末梢４		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	定期試験：　１００％		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学　第５版」　医学書院		
備 考 Other Comments	講義は教科書の流れに沿って、パワーポイント（スライド）を用いて行う。 パワーポイントの内容をプリント化し、授業資料として配布する。 国家試験の過去問を授業時に紹介することにより、必要な知識を自覚し学習意欲を高めることを目指す。 骨格模型の閲覧時間を設けて運動器の構造と一の立体的な理解を深めることを目指す。		

科目名 Course title	**解剖学Ⅲ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	前田　裕子	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ⅲでは、人体と細胞についての基礎知識、酸素を運ぶ血液の循環と心臓、栄養の消化と吸収を行う消化器系を学ぶ。 以下の項目を、スライドを使いながら説明し、資料プリントや練習問題を配布して理解を深めて行きたい。		
授業計画 Course Content	１　DVD「驚異の人体機能」：体全体を概観する ２　細胞の構造：人体の区分、細胞小器官、細胞膜 ３　細胞分裂、組織：上肢組織 ４　組織：支持組織、筋組織、神経組織 ５　血管の構造、吻合、心臓の構造、冠状循環 ６　刺激伝導系、体循環系動脈（総頚動脈、外頚動脈） ７　動脈：脳、上肢、胸部、腹部、下肢 ８　静脈：脳、上肢、奇静脈系 ９　静脈：門脈系、下肢の静脈、胎児の循環 １０　リンパ系：リンパ本幹、リンパ節　胸腺、脾臓 １１　消化器系①：歯、舌、唾液腺、咽頭 １２　消化器系②：嚥下、食道、胃、十二指腸 １３　消化器系③：小腸の構造、大腸の構造 １４　消化器系④：肝臓、膵臓、胆道 １５　腹膜、間膜		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後試験を行う。（１００％）		
教科書 Textbooks	「ネッター解剖学アトラス　原著第７版」　南江堂 「日本人体解剖学　下巻　改訂２０版」　南山堂		
備 考 Other Comments	器官系ごとに問題を配布する。		

科目名 Course title	**解剖学Ⅳ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	前田　裕子	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ｖでは、体液の調節と尿の生成を行う泌尿器系、種を保存する働きをする生殖器系生体機能を調節する器官として内分泌系を、受容と応答という観点から感覚器系を学ぶ。 以下の項目をスライドを使いながら説明し、資料プリントや問題を配布して、理解を深めていきたい。		
授業計画 Course Content	１　呼吸器系：鼻、咽頭、喉頭 ２　呼吸器系：気管、気管支、肺、胸膜、縦隔 ３　泌尿器系：腎小体、尿細管 ４　泌尿器系：腎の機能、尿管、膀胱、排尿器構 ５　男性生殖器：精巣、精子の発生、精巣上体 ６　男性生殖器：精管、付属器官、陰茎 ７　女性生殖器：卵巣、卵子の発生、黄体 ８　女性生殖器：卵管、子宮、月経周期、会陰 ９　女性生殖器：胎児の成長、胎盤 １０　内分泌系：下垂体、甲状腺、上肢小体 １１　内分泌系：副腎、膵臓、性ホルモン １２　皮膚：表皮、真皮、皮膚腺、皮膚感覚 １３　眼：眼球の構造 １４　眼：眼の付属器官　耳：外耳、鼓膜 １５　耳：中耳、内耳の構造		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後試験を行う。（１００％）		
教科書 Textbooks	「ネッター解剖学アトラス　原著第７版」　南江堂 「日本人体解剖学　下巻　改訂２０版」南山堂		
備 考 Other Comments	器官系ごとに問題を配布する。		

科目名 Course title	**基礎運動学Ⅰ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永　宣典	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【運動器の基本的構造とその機能について学習する。 人間の基本運動の機構を科学的に分析するために必要な力について学習する.		
授業計画 Course Content	**Chapter１ 運動器の構造と機能** １．骨の構造と機能 ２．関節の構造と機能　※一部生体力学の基礎を含む ３．骨格筋 ４．身体運動のエネルギー代謝 **Chapter２ 生体力学の基礎** １．身体運動の面と軸 ２．筋の活動張力と重力 ３．ベクトル ４．トルク、モーメント ５．重心 ６．床反力 ７．仕事 ８．てこの種類 ９．滑車		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学　第７版」　医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験９年及び専任教員２８年の経験を有する。		

科目名 Course title	**基礎運動学Ⅱ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高山 弘幹	期間及び単位 Term/Credits	１年次 前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】下肢（骨盤含む）について、骨運動や関節運動、および筋の作用、その他の身体への応用を学習する。 【到達目標】 ・股関節・膝関節・足関節・足趾の関節の骨運動および関節運動を説明できる。 ・股関節・膝関節・足関節・足趾の関節の筋の作用を説明できる。 ・股関節・膝関節・足関節・足趾の関節運動の制限因子について説明できる。		
授業計画 Course Content	１　股関節の骨指標・関節包内運動・構成運動 ２　大腿骨の頚体角・前捻角、Sharp 角・CE 角・ローザーネラトン線 ３　股関節筋の靭帯・関節唇の機能、スカルパ三角 ４　股関節筋の機能、関節中心と筋のベクトル ５　股関節運動の制限因子、腰部・骨盤運動と股関節の関係性、股関節トルクと体重のつり合い ６　膝関節の骨・靭帯、FTA、ミクリッツ線 ７　膝の運動学（転がり滑り、Screw-home movement、Roll back） ８　前十字靭帯・後十字靭帯・側副靭帯の機能、膝蓋大腿関節の運動学 ９　膝関節関節の筋機能、膝関節剪断力について １０　足関節・足部の骨・靭帯、Leg　Heel Angle １１　足関節の運動 １２　足部の運動、距腿・距骨下関節に作用する筋肉 １３　足部内在筋、クロスサポートメカニズム、ウィンドラス・トラス機構 １４　縦アーチと横アーチ １５　運動連鎖（上行性・下行制、OKC・CKC） ※詳細は初講の際に説明		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（80%） 小テスト（20%） ※小テストは２回目以降の授業開始時に実施予定		
教科書 Textbooks	「基礎運動学　第７版」　医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験１１年及び専任教員２年の経験を有する。		

科目名 Course title	**基礎運動学Ⅲ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋　和奈	期間及び単位 Term/Credits	１年次 後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】上肢について、骨運動や関節運動、および筋の作用、その他の身体への応用を学習する。 【到達目標】 ・肩関節（肩甲帯含む）・肘関節（前腕含む）・手関節・手指の関節の骨運動および関節運動を説明できる。 ・肩関節（肩甲帯含む）・肘関節（前腕含む）・手関節・手指の筋の作用を説明できる。 ・肩関節（肩甲帯含む）・肘関節（前腕含む）・手関節・手指の制限因子について説明できる。		
授業計画 Course Content	１　上肢帯と上肢の運動：肩甲帯 ２　上肢帯と上肢の運動：肩甲帯 ３　上肢帯と上肢の運動：肩甲帯 ４　上肢帯と上肢の運動：肩甲上腕関節 ５　上肢帯と上肢の運動：肩甲上腕関節 ６　上肢帯と上肢の運動：肩甲上腕関節 ７　上肢帯と上肢の運動：肩甲上腕関節 ８　上肢帯と上肢の運動：肘関節 ９　上肢帯と上肢の運動：肘関節 １０　上肢帯と上肢の運動：肘関節 １１　上肢帯と上肢の運動：手関節 １２　上肢帯と上肢の運動：手関節 １３　上肢帯と上肢の運動：手指 １４　上肢帯と上肢の運動：手指 １５　上肢帯と上肢の運動：手指 ※詳細は初講の際に説明		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学　第７版」　医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	木屋教員：作業療法士として臨床経験１５年の経験及び専任教員１０年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎運動学Ⅳ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	梅田 達成	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】頭頚部・体幹・顔面の運動、および歩行について学習する。 頭頚部・体幹については骨運動や関節運動、および筋の作用、その他の身体への応用を学習する。 歩行については概要、運動、筋活動について学習する。 【到達目標】 ・頭頚部・体幹の各関節の骨運動や関節運動ついて説明できる。 ・頭頚部・体幹の各関節の筋の作用について説明できる。 ・顔面筋の作用・開口閉口について説明できる。 ・歩行周期について説明することができる。 ・歩行の重心移動や決定因子について説明できる。 ・歩行の関節角度について説明できる。 ・歩行の筋活動について説明できる。 ・歩行の関節モーメントについて説明できる。 ・歩行に関連する用語について説明することができる。		
授業計画 Course Content	１　脊柱の運動学：腰椎 ２　脊柱の運動学：胸椎・胸郭 ３　脊柱の運動学：頸椎 ４　顔面の運動学 ５　姿勢　力学の基礎（重心と筋活動、床反力と筋活動） ６　安静時立位姿勢と筋活動　立位姿勢制御 ７　歩行　基礎知識　歩行周期 ８　歩行　基礎知識　歩行周期 ９　歩行時の重心とその仕組み １０　歩行　関節角度 １１　歩行　筋活動 １２　歩行　筋活動 １３　歩行　関節モーメント １４　歩行　関節モーメント １５　総復習　国家試験問題		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学　第７版」　医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	梅田教員：理学療法士として臨床経験５年及び専任教員７年の経験を有する。		

科目名 Course title	**生理学Ⅰ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	山本　知子	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives （予定）	生体の機能・働きとそのメカニズムを学ぶ。細胞の機能から始まり、細胞の集まりである組織、組織の集まりである器官、器官の集まりである個体に至るまで、機能とその統合を理解する。ミクロの視点からマクロの視点へと進み、正常な生命活動を一貫して学ぶ		
授業計画 Course Content （予定）	（以下を 15 回で実施） １　生理学基礎 ①生理学とは　②人体構成要素　③細胞の構造と機能　④細胞膜を隔てた物質移動 ２　神経の機能 ①神経細胞と支持細胞　②シナプス　③活動電位と局所電位　④興奮伝導と興奮伝達 ３　筋肉の機能 ４　神経系の構成 ①反射　②中枢神経と末梢神経　③体性神経と自立神経 ５　自律神経と内臓機能 ①交感神経と副交感神経　②伝達物質と受容体　③神経支配様式と神経各論　④内臓反射と中枢		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（予定）　定期試験、小テスト、レポート		
教科書 Textbooks	「シンプル生理学　改訂第８版」　南江堂		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	**生理学Ⅱ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	種村　麻里	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	生理学は、生体の機能とそのメカニズムを解明する学問である。様々な生命活動を営む際に、我々の身体の中ではどのような現象が起きているのか、身体の基本的な仕組みを解き明かすものである。 特に医療に携わる資格を取得するにあたっては解剖学との連携が肝要であり、身体の構造を把握した上で、その生体機能を総合的に理解し、体系的な知識を獲得することが重要となる。本科目では、体性神経系と運動の機能、中枢神経系の高次機能、感覚器系の構成と機能について学ぶ。		
授業計画 Course Content	1.　脊髄・脳幹の構造と機能 2.　体性神経系と運動機能①　脊髄の運動機能 3.　体性神経系と運動機能②　脳幹の運動機能 4.　体性神経系と運動機能③　小脳・間脳の運動機能 5.　体性神経系と運動機能④　大脳基底核の運動機能 6.　体性神経系と運動機能④　錐体路 7.　中枢神経系の高次機能①　新皮質の構造と機能分化 8.　中枢神経系の高次機能②　新皮質連合野の統合機能 9.　中枢神経系の高次機能③　睡眠と覚醒 10.　中枢神経系の高次機能④　辺縁系と視床下部の機能 11.　感覚系の構成と機能①　感覚の一般的性質 12.　感覚系の構成と機能②　体性感覚　内臓感覚 13.　感覚系の構成と機能③　視覚 14.　感覚系の構成と機能④　聴覚と平衡感覚 15.　感覚系の構成と機能⑤　嗅覚と味覚		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験を行い、１００点満点中６０点以上で合格とする。		
教科書 Textbooks	教科書「シンプル生理学　改訂第８版」南江堂 参考書「標準生理学　第９版」医学書院		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	**生理学Ⅲ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	種村　麻里	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	生理学は、生体の機能とそのメカニズムを解明する学問である。様々な生命活動を営む際に、我々の身体の中ではどのような現象が起きているのか、身体の基本的な仕組みを解き明かすものである。 特に医療に携わる資格を取得するにあたっては解剖学との連携が肝要であり、身体の構造を把握した上で、その生体機能を総合的に理解し、体系的な知識を獲得することが重要となる。 本科目では、血液、消化と吸収、栄養と代謝、内分泌系の機能、生殖について学ぶ。		
授業計画 Course Content	1.　血液の生理①　血液の組成　細胞成分 2.　血液の生理②　血液凝固 3.　血液の生理③　血液型　免疫機構 4.　消化と吸収①　消化管の基本的構造　口腔内と胃内の消化 5.　消化と吸収②　肝胆膵の働き 6.　消化と吸収③　小腸内の消化と吸収 7.　消化と吸収④　大腸の働きと排便　肝臓の機能 8.　栄養と代謝①　基礎代謝と栄養所要量 9.　栄養と代謝②　三大栄養素の中間代謝 10.　内分泌系の機能①　ホルモンの一般的性質と分泌調節 11.　内分泌系の機能②　視床下部、下垂体のホルモン 12.　内分泌系の機能③　甲状腺のホルモンと骨代謝 13.　内分泌系の機能④　膵臓のホルモン 14.　内分泌系の機能⑤　副腎のホルモン 15.　生殖①　精巣、卵巣のホルモンと生殖機能		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験を行い、１００点満点中６０点以上で合格とする。		
教科書 Textbooks	教科書「シンプル生理学　改訂第８版」南江堂 参考書「標準生理学　第９版」医学書院		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	生理学Ⅳ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	森　拓也	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	生理学Ⅳでは、人体における循環系の機能、呼吸の生理、尿の生成と排泄、体温とその調整について学習する。その中でも特に理学療法士に必要なかかわりの深い内容、国家試験の頻出問題を解説する。到達目標は人体での生理的な機能の重要性を理解し、本講義範囲の国家試験問題を読解する経験を得るところまでとする。		
授業計画 Course Content	１　循環系の機能　心臓の構造と基本的性質　自動性・興奮性・伝導性・収縮性 ２　循環系の機能　心電図と不整脈のメカニズム　心臓ポンプ機能 ３　循環系の機能　血管系とリンパ系官、循環調整機構 ４　循環系の機能　循環調節機構と局所循環 ５　呼吸の生理　呼吸の仕組み、構造・構成・喚起、ガス交換 ６　呼吸の生理　血液中の酸素運搬、二酸化炭素の運搬、一酸化炭素中毒 ７　呼吸の生理　呼吸・肺換気量の調整、異常、人工呼吸 ８　尿の生成と排泄　腎の機能的構造、糸球体ろ過 ９　尿の生成と排泄　腎血漿流量、クリアランス　尿細管による再吸収 １０　尿の生成と排泄　尿細管における分泌、尿の成分と排尿 １１　体液とその調節　体液の区分と水バランス、体液のイオン組成 １２　体液とその調節　体液の恒常性を維持するしくみ １３　体温とその調整　体温、熱生成、熱放散 １４　体温とその調整　行動性体温調整、体温調整機構 １５　体温とその調整　高体温と低体温		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	シンプル生理学　改訂第８版		
備 考 Other Comments	適宜、配布資料により講義を進める		

科目名 Course title	**人間発達学Ⅰ（運動）**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	松本 茂樹	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives （予定）	（運動発達） ①作業療法を実施するうえで、正常発達知識が必要であることを知る。 ②乳幼児が、座位・立位を獲得するまでの過程を知る。 ③生後 10 ヶ月までの粗大運動発達が、視覚・聴覚・体性感覚・上肢機能、 認知・実務経験発達の基盤となり、関連しながら発達することを知る。 ④発達学的な運動分析を知る。 ⑤発達領域の作業療法を知る。		
授業計画 Course Content （予定）	１　オリエンテーション ２　新生児 ３　頭部のコントロール ４　抗重力活動 ５　立ち直り運動 ６　坐位・立位・歩行技能 ７　視覚技能 ８　上肢技能		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（予定）レポート		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	**人間発達学Ⅱ（心理）**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	三枝　好恵	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives （予定）	（発達心理） 子どもから成人、老人への生涯発達。生まれたばかりで他者の世話なしには生きていけなかった赤ん坊も、やがては自分の周りの世界を発見し、言葉を発し、歩くようになっていきます。これまで自分が成長してきた過程を振り返り、認知や情緒、対人関係の発達を学んでいきます。基礎的な発達心理学の概念を習得することを目標とします。		
授業計画 Course Content （予定）	１　発達とは―発達心理学の基礎 ２　乳幼児期の発達 ３　言葉の発達① ４　言葉の発達② ５　心の理論 ６　児童期のこころ ７　青年心理学 ８　老年心理学―認知症の理解		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（予定）発達心理　　テスト、出席率、授業内での小テスト		
教科書 Textbooks	Cross basic リハビリテーションテキスト　人間発達学　メジカルビュー社		
備 考 Other Comments			

＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	**精神医学Ⅰ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	嶋 健作、髙橋 隼、正木 慶大	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives （予定）	授業目的 精神医学の基礎的知識を習得し、精神医学という身近な疾患を理解する第一歩とする。 到達目標 １．精神医学の意義と基本的理念を理解し、説明できる。 ２．基本的な精神症状の概念を理解し、用語を正しく使用できる。 ３．精神障害を生物・心理・社会的な観点から多面的に捉えることができる。 ４．精神疾患の分類体系を理解し、その概要を説明できる。 ５．代表的な精神疾患の特徴を理解し、その概要を説明できる。 ６．精神科的治療の種類と方法を理解し、その概要を説明できる″ 授業概要本講義では精神医学を総論的に学ぶ。医学・医療における精神医学の意義と役割り、基本的な理念、精神医療の歴史を概観したのち、多様な精神症状の概念的知識と評価・検査法を体系的に学ぶとともに、身体的基盤を有する精神障害から環境や心理的側面の関与が大きい精神障害に至るまで精神障害の成因論と、薬物・身体療法および精神療法に関する基本的知識を体系的に習得する。現在臨床に従事する精神科医師が自身の経験を交えて講義する。		
授業計画 Course Content （予定）	１　オリエンテーション、精神医学の歴史など ２　中枢神経の解剖と生理 ３　神経徴候、せん妄 ４　精神科に関する検査など ５　統合失調症総論 ６　統合失調症各論 ７　気分障害総論 ８　気分障害各論 ９　器質性精神障害総論 １０　器質性精神障害各論 １１　神経症、生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 １２　人格障害 １３　知的障害、発達障害 １４　精神作用物質、てんかん １５　復習とまとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 80～85 点、小テスト 5 点×３～４回（15～20 点）		
教科書 Textbooks	医学書院　精神医学 第 4 版増補版（標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野）		
備 考 Other Comments	講義予定については進行状況などによって適時変更があります。 準備学習:上記に該当する部分をテキストで読んでおくこと。 試験やレポートに対するフィードバック方法として資料、テキストを復習すること 小テストで要点を理解し、本試験に挑むこと。″		
実務経験内容			

科目名 Course title	**病理学**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	廣石　伸互	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives （予定）	病理学とは、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることによって、病気の本態を究明する学問である。 本講義においては、始めに病理学の位置付け、役割、その重要性を説明した後、病気の原因（病因論）について講述、テキストの総論・各論各項目に沿って授業を進める。		
授業計画 Course Content （予定）	１　病理学とは ２　細胞・組織の損傷 ３　炎症 ４　免疫 ５　アレルギー ６　感染症 ７　呼吸器障害 ８　循環器障害　充血とうっ血 ９　循環器障害　虚血と梗塞 １０　代謝障害 １１　先天性異常の分類 １２　先天性異常　染色体異常と遺伝子異常 １３　腫瘍とは何か １４　悪性腫瘍の広がりと影響 １５　脳・神経系の疾患		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（予定）定期試験（１００％）		
教科書 Textbooks	「系統看護学講座　専門基礎分野　病理学」医学書院		
備 考 Other Comments	講義内容は理解度に応じて変更することがある。		

科目名 Course title	**臨床心理学**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高橋　京子	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives （予定）	臨床心理学について概説するとともに、臨床心理学的な方法や、理解について学ぶことをねらいとする。		
授業計画 Course Content （予定）	（１５回で行う） １　臨床心理学について ２　パーソナリティ ３　アセスメント ４　発達と心理的問題 ５　心理的介入 ６　臨床心理学の応用 ７　国家試験対策		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験・レポート・授業中の態度など		
教科書 Textbooks	「心理学・臨床心理学概論　第３版」北樹出版		
備 考 Other Comments			

＝保健医療福祉とリハビリテーション理念＝

科目名 Course title	**社会福祉学**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	後藤　登美子	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives （予定）	社会福祉は日常生活に深くかかわるものです。この授業では第三者的に社会福祉の学習に取り組むのではなく自身の生活にひきつけて考えていきたい。社会福祉サービスが一人ひとりの行き方をできるだけ満足のいく形で実現できるよう支援するものであると認識してもらいたいです。 尚、授業は講義だけでなく、ビデオ等を通しても行ないます。		
授業計画 Course Content （予定）	１　現代社会における福祉制度と福祉政策 わが国における福祉制度の概念と理念 福祉政策の概念と理念について 福祉制度と福祉政策の関係とは ２　福祉制度の発達過程 日本における福祉の始まり 近代社会と福祉 現在社会と福祉 ３　わが国の社会保障の概要 年金保険制度と企業年金の仕組み 医療保険制度 労働保険制度 介護保険制度 ４　低所得者に対する支援と生活保護制度 公的扶助の概念 生活保護法について ５　自立支援プログラムと生活福祉資金貸付制度について 自立支援プログラムの意義と実際 低所得者対策 ６　児童の福祉（子ども家庭福祉） 児童虐待問題について ひとり親家庭への支援・施策について DV 問題について ７　高齢者の福祉 介護保険制度について ８　利用者本位における契約制度について 成年後見制度 日常生活自立支援事業 福祉サービス利用者保護のためのシステム		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（予定）試験・平常点（レポート等）		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	リハビリテーションⅠ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村　智加・梅田　達成	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士・作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】　講義では臨床実習概要、感染対策、見学発表、施設の概要や療法士の役割、リハビリテーションの概論について学習する。早期見学実習を通じてリハビリテーション職種である療法士の役割を学習し動機を促進する。また障害者体験を通じ日常生活に機能障害や環境が及ぼす影響を学習する。 【到達目標】 ・リハビリテーションの各分野の役割と目的を説明できる。 ・各施設の概要と各施設での療法士の役割について説明できる。 ・自己の目指す目標を発表できる。 ・スタンダードプリコーションについて説明できる。 ・障害が日常生活に及ぼす影響について説明できる。		
授業計画 Course Content	１　講義概要　説明 ２　リハビリテーションについて① ３　リハビリテーションについて② ４　感染対策 ５　施設見学オリエンテーション ６　リハビリテーション施設見学 ７　リハビリテーション施設見学 ８　リハビリテーション施設見学 ９　リハビリテーション施設見学 １０　リハビリテーション施設見学 １１　リハビリテーション施設見学 １２　リハビリテーション施設見学 １３　リハビリテーション施設見学 １４　リハビリテーション施設見学 １５　リハビリテーション施設見学 １６　リハビリテーション施設見学 １７　リハビリテーション施設見学 １８　発表準備・障害体験オリエンテーション １９　発表準備・障害体験オリエンテーション ２０　障害体験 ２１　障害体験 ２２　まとめ発表会 ２３　まとめ発表会		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	体験学習レポート 発表会内容		
教科書 Textbooks	別途資料を配布する		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	勝村智加：作業療法士として臨床経験７年及び専任教員７年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験５年及び専任教員７年の経験を有する。		

科目名 Course title	リハビリテーションⅡ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	桶田　勝文	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	・理学療法士に関する歴史・教育・法律・職域・対象等を学び職業としての理学療法士像を明確にする。 ・リハビリテーションの概念の理解を深める。 ・リハビリテーションチームの理解を深める。		
授業計画 Course Content	1.理学療法の定義、リハビリテーションの定義、法律、カリキュラム 2.保健制度、診療報酬 3.歴史、倫理、職能団体 4.理学療法の実際 5.急性期の理学療法 6.回復期の理学療法 7.生活期の理学療法 8.まとめ、研究、行政、他		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験　平常点		
教科書 Textbooks	なし。		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	理学療法士として臨床経験５年及び専任教員１８年の経験を有する。		

科目名 Course title	リハビリテーションⅢ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】リハビリテーション医療にかかわる職種の役割について理解し、どのように他職種と連携するのかを学習する。実際に理学療法士・作業療法士・看護師での多職種連携の演習を行う。 （内容はこの通りであるが概要からは削除：理学療法士のスポーツ分野での多職種連携、作業療法士の精神分野での多職種連携についても学習する。） 【到達目標】 ・リハビリテーションに関わる職種とその役割について説明できる。 ・多職種連携の必要性について説明できる。 ・症例を通じて多職種連携を経験し、対象者の支援について発表できる。		
授業計画 Course Content	（理学療法士） １　多職種連携　理学療法　総論 ２　スポーツ理学療法 （作業療法士） ３　多職種連携　作業療法　総論 ４　精神科作業療法 （看護師） ５　多職種連携　看護　総論 （言語聴覚士） ６　嚥下障害総論・嚥下障害の実際 ７　言語聴覚総論・失語症と構音障害 （リハビリテーション関連職種） ８　多職種連携　医療ソーシャルワーカー　総論 ９　多職種連携　ケアマネージャー　総論 １０　多職種連携　栄養士　総論 １１　多職種連携　心理士　総論 （3 科多職種連携） １２　多職種連携総論 １３　多職種連携　症例課題　グループワーク １４　多職種連携　症例課題　グループワーク １５　多職種連携　発表		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験と 3 科多職種連携課題（提出・発表）の合算で評価		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容			

《専門分野》＝基礎作業療法学＝

科目名 Course title	**作業療法概論**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	大江 俊	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	作業療法の基礎となる「作業」や「活動」、「作業療法・作業療法士とは」という意味を考え、歴史をたどり、法規などを知ることにより全体像を学ぶ。また、作業療法士にとって必要な知識・適正・態度などについて考え、今後につなげていけるようになることを目的とする。 【到達目標】 作業療法の歴史、意義、目的、対象、領域について他者に説明できる。 作業療法に関わる法律について他者に説明できる。 作業療法士として適切な資質、思考について理解し、医療人としての素養、倫理観を養う。		
授業計画 Course Content	１　「作業」及び「作業療法」の定義 ２　世界における作業療法の歴史 ３　日本における作業療法の歴史 ４　作業療法の対象となる領域 ５　医療倫理と作業療法士に求められる資質・適正・態度 ６　作業療法における理論・モデル（MOHO、CMOP） ７　作業療法の実際（身体障害、精神障害） ８　作業療法の実際（発達障害、老年障害） ※詳細は初講の際に説明		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト（30%） 定期試験（70%）		
教科書 Textbooks	標準作業療法学　作業療法学概論　第４版　　医学書院		
備 考 Other Comments	適宜資料を配布予定		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験８年及び専任教員１年の経験を有する。		

科目名 Course title	**障害学**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	桶田　勝文	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	【概要】 障害の概要や器官別に生じる障害、および症候学について学習する。 【到達目標】 ・生活機能分類・障害分類について説明・分類ができる。 ・各器官から生じる障害を説明できる。 ・リハビリテーションに関わる主な症候について説明できる。		
授業計画 Course Content	1.障害について、器官別障害について、 2.症候学　炎症・疼痛、 3.可動域制限.拘縮、 4.筋力低下、筋萎縮 5.麻痺、高次機能障害、 6.運動耐用能の低下等、－ 7.器官別障害学　運動器 8.器官別障害学　脳疾患		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	なし（資料配布）		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験５年及び専任教員１８年の経験を有する。		

科目名 Course title	**動作分析学Ⅰ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	藤善　将	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives （予定）	本講座では、作業療法についての知見を振り返り深めたうえで、作業療法士が ADL の向上・自立に向けて介入していく視点について学ぶ。作業という人の営みを様々な角度から分析する臨床的視点をもち、言語化できることを目標とする。		
授業計画 Course Content （予定）	１　作業療法についての振り返り ２　作業療法の理解に向けたグループワーク ３　活動分析（前開きシャツ・靴下など） ４　分析結果の発表・ディスカッション ５　巧緻動作と ADL の関係性についてのグループワーク ６　分析結果の発表・ディスカッション ７　食べる行為についての作業分析（グループワーク） ８　分析結果の発表・ディスカッション		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（予定）筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として教員６年及び臨床２５年の経験を有する。		

＝作業療法評価学＝

科目名 Course title	**評価学　総論**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永　宣典	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】 評価学各論の前段階として療法士が行う評価の概要とその過程、および評価の意義や目的を（変更：について）学習する。 【到達目標】 ・療法士が行う評価の過程を説明できる。 ・療法士が行う情報収集について説明できる。 ・療法士が行う検査・測定の種類について説明できる。 ・療法士が行う統合と解釈について説明できる。 ・療法士が行う予後予測や目標設定について説明できる。 ・療法士が行う再評価と効果判定について説明できる。		
授業計画 Course Content	１　評価の意義と目的、開かれた問題と閉じられた問題 ２　ONE　BEST　SOLUTION はない！、クイズとパズル、問題認識 ３　責任者は自分自身、評価の目的 ４　評価の過程、評価のプロセス ５　各段階の特質①（情報収集、初回評価、ゴール設定） ６　各段階の特質②（OT 実施計画の立案、OT の実施） ７　各段階の特質③（再評価、フォローアップ、記録を書く際の基本的知識と原則） ８　まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①終講試験　　②出席状況		
教科書 Textbooks	PT・OT ビジュアルテキスト　リハビリテーション基礎評価学　第 2 版　羊土社 PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編　（第 2 版補訂）金原出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験９年及び専任教員２８年の経験を有する。		

科目名 Course title	**評価学各論Ⅰ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	赤松　眞吾、宝田　愛	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士・作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】 療法士として患者や対象者の身体に触れるための準備として「骨や血管の触診技術」を（変更：について）学習する。 また「バイタル測定」や「形態測定」の意義や目的、および測定技術を学習する。 【到達目標】 ・リハビリテーションに関わる主な身体の四肢・体幹の骨・血管について触診できる。 ・バイタル測定については、体温・脈拍・血圧・呼吸数・動脈血酸素飽和度の測定意義や目的、および測定方法を説明できる。 ・バイタル測定については、体温・脈拍・血圧・呼吸数・動脈血酸素飽和度の測定ができる。 ・形態測定については、体格（体重、身長、BMI)、四肢長、四肢周径の測定意義や目的、および測定方法を説明できる。 ・形態測定については、体格（体重、身長、BMI)、四肢長、四肢周径の測定ができる。		
授業計画 Course Content	１～８　　触診（骨・動脈）について ９～１１　バイタル測定について １２～１５　形態測定について ※詳細は初講の際に説明		
成績評価の方法・ 基準・評価	小テスト・実技試験（口頭試問）　　の成績を加味して判定する.		
教科書 Textbooks	PT・OT ビジュアルテキスト　リハビリテーション基礎評価学　第 2 版　羊土社 PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編　（第 2 版補訂）金原出版		
備 考	なし		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員２７年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験６年及び専任教員５年の経験を有する。		

科目名 Course title	**評価学各論Ⅱ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	宮脇　孝治、大江　俊	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士・作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】 　四肢体幹の「関節可動域測定」について意義や目的、および測定技術を学習する。 【到達目標】 ・四肢・体幹の可動域測定の意義や目的、測定方法ついて説明できる。 ・関節可動域の標準角度や制限する因子について説明できる。 ・四肢・体幹の可動域測定ができる。		
授業計画 Course Content	１　　ＲＯＭ総論（ROM 定義・関節の構成要素・基礎知識） ２～６　　ＲＯＭ上肢（肩関節、肘関節、前腕、手関節、手指） ７～１３　ＲＯＭ下肢（股関節、膝関節、足関節、足趾） １４～１５　頸部、体幹・別法・まとめ ※詳細は初講の際に説明		
成績評価の方法・ 基準・評価	小テスト・実技試験（口頭試問）　　の成績を加味して判定する.		
教科書 Textbooks	PT・OT ビジュアルテキスト　リハビリテーション基礎評価学　第 2 版　羊土社 PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編　（第 2 版補訂）金原出版		
備 考	なし		
実務経験内容	宮脇教員：理学療法士として臨床経験８年及び専任教員５年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験８年及び専任教員１年の経験を有する。		

科目名 Course title	**評価学各論Ⅲ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	宝田 愛、森谷 伸樹、高山 弘幹	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／２単位
授業方法 Teaching Methods	６０時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士・作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】 四肢体幹の「筋力測定」について意義や目的、および測定技術を学習する。 【到達目標】 筋力測定の意義や目的、方法について説明できる。 徒手筋力測定の実施ができる。またその結果を判定できる。		
授業計画 Course Content	１　総論　筋力とは　MMT の原理、原則、注意点 肩甲骨外転と上方回旋(前鋸筋)、肩甲骨挙上(僧帽筋)、 ２　肩甲骨内転(僧帽筋中部線維)、肩甲骨下制と内転(僧帽筋下部線維) 肩甲骨内転と下方回旋(菱形筋群) ３　肩関節屈曲(前方挙上)(三角筋前部、棘上筋、烏口腕筋)、肩関節伸展(後方挙上)(三角筋後部) ４　肩関節外転(側方挙上)(三角筋中部および棘上筋)、肩関節水平外転(三角筋後部) ５　肩関節水平内転(大胸筋)、肩関節外旋(棘下筋、小円筋) ６　肩関節内旋(肩甲下筋)、肘関節屈曲(上腕二頭筋、上腕筋、および腕橈骨筋) 肘関節伸展(上腕三頭筋) ７　前腕回外(回外筋、上腕二頭筋)、前腕回内(回外筋、方形回内筋) ８　手関節伸展(長短橈側手根伸筋、尺側手伸筋)　手関節屈曲(橈側手根屈筋、尺側手根屈筋)、 ９　PIP 関節および DIP 関節(浅指屈筋、深指屈筋)の屈曲　複合テスト １０　PIP 関節および DIP 関節、MP 関節伸展(指伸筋、示指伸筋、小指伸筋) １１　指 MP 関節屈曲(虫様筋と骨間筋) 、 １２　指外転(背側骨間筋)、内転(掌側骨間筋 １３　母指 MP、IP 関節屈曲(短母指屈筋、長母指屈筋)、母指 MP.IP 関節伸展(短母指伸筋、長母指伸筋) １４　母指外転(長母指外転筋、短母指外転筋)、母指内転(母指内転筋)、 １５　対立運動(母指対立筋、少子対立筋) １６　股関節屈曲・伸展 １７　股関節伸展別法 １８　股関節外転、股関節内転 １９　股関節外旋、股関節内旋 ２０　膝関節屈曲 (総合)、内側・外側 ２１　膝関節伸展 ２２　足関節底屈、足関節背屈内がえし ２３　足の内がえし、足の底屈を伴う外がえし ２４　母趾と足ゆびの MP 関節屈曲、DIP、PIP 関節屈曲、 ２５　母趾と足ゆびの MP 関節、IP 関節伸展 ２６　頸部屈曲、伸展、回旋 ２７　頭部屈曲、伸展、体幹屈曲 ２８　体幹回旋、体幹伸展 ２９　骨盤挙上、体幹側面 ３０　安静な吸気 脳神経支配筋のテスト 徒手筋力測定の別法(ハンドヘルドダイナモメーター、握力テスト等機器を使用するテスト法)		
成績評価の方法・ 基準・評価	小テスト・実技試験（口頭試問）　　の成績を加味して判定する.		
教科書 Textbooks	新・徒手筋力検査法　原著第 10 版　協同医書出版社		
備 考	なし		
実務経験内容	宝田教員：作業療法士として臨床経験６年及び専任教員５年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員７年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験１１年及び専任教員２年の経験を有する。		

科目名 Course title	**評価学各論Ⅳ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	中野　里佳、森谷 伸樹	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士・作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】 感覚、疼痛、身体で生じる反射、筋緊張などの各種測定について、意義や目的および測定方法を（変更：について）学習する。 【到達目標】 筋緊張の検査について意義や目的について説明できる。 筋緊張の検査を実施できる。またその結果を判定できる。 深部腱反射・表在反射・病的反射・姿勢反射の意義や目的について説明できる。 深部腱反射・表在反射・病的反射・姿勢反射を実施できる。またその結果を判定できる。 感覚検査の意義や目的について説明できる。 感覚検査を実施できる。またその結果を判定できる。 疼痛検査の意義や目的について説明できる。 疼痛検査を実施できる。またその結果を判定できる。		
授業計画 Course Content	全１５コマの内訳 １～３：筋緊張の検査について理解し実施ができるようになる。 ４～８：反射検査について理解し実施ができるようになる。 ９～１３：感覚検査について理解し実施ができるようになる。 １４～１５：疼痛検査について理解し実施ができるようになる。 ※詳細は初講の際に説明		
成績評価の方法・ 基準・評価	小テスト・実技試験（口頭試問）　　の成績を加味して判定する.		
教科書 Textbooks	PT・OT ビジュアルテキスト　リハビリテーション基礎評価学　第 2 版　羊土社 PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編　（第 2 版補訂）金原出版		
備 考	なし		
実務経験内容	中野教員：作業療法士として臨床経験２１年及び専任教員４年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員７年の経験を有する。		

＝作業療法治療学＝

科目名 Course title	**動物介在療法学Ⅰ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	川嶋　舟	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives （予定）	犬や猫、馬やイルカなど、動物を介することで、人が癒されたり、人の機能の改善を図ったりすることが知られており、動物を介在して行うため動物介在療法と言われている。動物介在療法に関わる人材の多くが、犬や馬、イルカなどの動物の専門家によるアプローチであり、人のリハビリテーションの専門家である理学療法士、作業療法士が動物介在療法を実践する場はまだ少ない。この講義では、動物介在療法の中でも、特に人に近しい存在と言われる馬を介した馬介在療法について学び、理学療法士、作業療法士が馬介在療法を実践することのメリット、その実践に必要な知識を学ぶ。		
授業計画 Course Content （予定）	１　動物介在療法とは、馬介在療法とは 日本や世界で行われている動物介在療法を知る。そしてその中で特に馬を扱ってリハビリテーションを行う馬会介在療法とは何かを学ぶ。 ２　馬という動物について 馬の生理、運動、解剖学的な知識、馬の生態やについて学ぶ。 ３　馬と人の関係について 人と馬が共に共存していく歴史を学び、人と馬の関係性を歴史的に考えていく。」 ４　人について 単に人の解剖、運動、生理学的視点だけでなく、馬に関わっているときの人の身体機能や精神機能について学ぶ ５　馬介在療法の効果について（身体機能面） 馬介在療法の中で、乗馬を利用し体幹機能の向上を目的としたヒポセラピーなど、身体機能への効果について学ぶ。 ６　馬介在療法の効果について（精神機能面） 馬は人の幼児程度の知能と言われ、それが人のとってノンバーバルコミュニケーションを利用した精神機能面への効果が期待されると言われており、どのような効果が期待できるかを学ぶ。 ７　馬介在療法の実践について 日本で理学療法士、作業療法士が実践しているホースセラピーはどのようなものがあるのかを学ぶ。 ８　馬介在療法の運用について 馬介在療法を実施適応し実践してくための、運用方法や費用等について学び、理学療法士、作業療法士が実際の現場でどのように馬介在療法を実施するのかを学ぶ。		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（予定）提出物および定期試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	必要に応じて、実際に馬との関わる機会を提供する。		

科目名 Course title	**日常生活動活動学Ⅰ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋 和奈、宮脇　孝治	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義・実技	実務経験 Experience	理学療法士・作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】 日常生活活動について概要・評価、および動作介助の技術について学習する。 【到達目標】 ・日常生活活動の概要について説明できる。 ・日常生活活動の評価について理解することが出来る。 ・日常生活活動にかかわる基本的動作の理解及び介助が出来る。		
授業計画 Course Content	１～８　　座学 ・日常生活活動の概念と療法士の役割 ・日常生活活動別の問題点と援助の視点 ・日常生活活動の障害 ・評価の方法 ９～１５　実技 ※詳細は初講の際に説明		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実技試験、筆記試験の合算予定		
教科書 Textbooks	「ADL とその周辺　評価・指導・介護の実際　第３版」　医学書院　　又は 「PT・OT ビジュアルテキスト　ADL　第２版」　　羊土社 ※変更の可能性あり		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	木屋教員：作業療法士として臨床経験１５年の経験及び専任教員１０年の経験を有する。 宮脇教員：作業療法士として臨床経験８年の経験及び専任教員５年の経験を有する。		

科目名 Course title	**物理療法学Ⅰ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	赤松　眞吾	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】物理的なエネルギ―を生体に活用する物理療法について、エネルギーの特性や適応・禁忌事項、および実施方法について学習する。 【到達目標】 温熱療法について、エネルギーの特性、適応、禁忌、実施方法について説明できる。 温熱療法について、実施ができる。 寒冷療法について、エネルギーの特性、適応、禁忌、実施方法について説明できる。 寒冷療法について、実施ができる。 超音波療法について、エネルギーの特性、適応、禁忌、実施方法について説明できる。 超音波療法について、実施ができる。		
授業計画 Course Content	１　物理療法の目的、理学療法のなかでの位置づけ、物理療法各機器の概説 ２　物理療法の対象と病理(炎症と創傷治癒)、物理療法の対象と病理(疼痛) ３　物理療法の対象と病理(筋トーヌス異常)、物理療法の対象と病理(運動制限) ４　温熱が全身、局所に与える影響① ５　温熱が全身、局所に与える影響② ６　ホットパック・パラフィン療法 ７　ホットパック・パラフィンの演習 ８　超音波療法① ９　超音波療法② １０　極超短波療法 １１　極超短波療法・超音波療法の演習 １２　寒冷療法　生理学的作用について １３　寒冷療法の目的・適応・禁忌について、RICE について １４　アイスマッサージ、アイスパック、コールドパック、コールドスプレー、 持続的冷却装置の使用方法、注意点などについて １５　アイスパック　コールドパックの演習 ※詳細は初講の際に説明		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	毎回の講義での提出物を評価：50% 筆記試験：50% 合計：100%として評価する		
教科書 Textbooks	「物理療法テキスト　改訂第３版」　南江堂		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員２７年の経験を有する。		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	**地域臨床見学実習**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	到達目標 （1）職業人としての適正を理解することができる。 （2）対象者との適切な対人関係やスタッフとの適切な対人関係を構築できる。 （3）地域におけるリハビリテーションスタッフの業務と役割を理解することができる。 （4）患者（対象者）の持つ障害を ICF や ICIDH を用いて分類し、それぞれの持つ問題の多様性を知ることが出来る。 (5)記録が出来る。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による） ※新型コロナウイルス感染症の状況により一部学内演習で実施することがある。		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習施設の評定と実習終了後のセミナーを含めて総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験９年の経験及び専任教員２８年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験１５年の経験及び専任教員１０年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験７年の経験及び専任教員７年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験６年の経験及び専任教員５年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験２１年の経験及び専任教員４年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験８年の経験及び専任教員１年の経験を有する。		

講 義 概 要

2025 年度　作業療法学科

2 年生

阪奈中央リハビリテーション専門学校

作業療法学科

《専門基礎分野》　＝人体の構造と機能と心身の発達＝

科目名 Course title	**運動学実習**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永　宣典	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	６０時間／演習	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	本講座では１学年時に習得した運動学の基礎について、実際に体を動かして起こりうる運動を分析する手法を学習し、そのメカニズムを理解する。後半の運動分析は、実際の日常生活における動作をビデオカメラ等の必要な機器を使用して分析し、考察する。		
授業計画 Course Content	１・２　オリエンテーション、関節運動の考え方 ３・４　筋走行と骨運動①（三角筋） ５・６　筋走行と骨運動②（肩甲上腕リズム） ７・８　筋走行と骨運動③（菱形筋） ９・１０　筋走行と骨運動④（前鋸筋） １１・１２　まとめ①（グループ発表） １３・１４　まとめ②（グループ発表） １５・１６　運動分析①（椅子からの立ち上がり運動動作撮影） １７・１８　運動分析②（椅子からの立ち上がり運動動作分析） １９・２０　運動分析③（正常歩行、オリジナル歩行動作撮影） ２１・２２　運動分析④（立ち上がり動作分析発表） ２３・２４　運動分析⑤（正常歩行分析発表） ２５・２６　運動分析⑥（オリジナル動作分析発表） ２７・２８　重心と体重移動 ２９・３０　（予備）まとめ ※前年度実績		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①筆記試験　②レポート　③出席状況 レポート課題は実習を進めながら作成します。筆記試験は記述式です。授業で習得した内容をしっかり理解しておくこと。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	栄養・薬理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	小橋　真弓　・前田　和宏	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	本講義は、リハビリテーションと栄養・代謝との関連についての理解および薬物による人間の反応の理解ができることを到達目標としている。 したがって、栄養と代謝の概要並び代謝異常に関する講義を行い、その後栄養管理に関する内容を述べる。 もう一つの学習目標としている薬理の理解に対し、薬物の基本および対象疾患と薬物療法、副作用の話を中心に行う。		
授業計画 Course Content	（栄養学） １　栄養とは ・基礎栄養学、応用栄養学、臨床栄養学、公衆栄養学の違いを知る ・５大栄養素の消化と吸収など ２　リハビリテーションに関わる栄養学 ・臨床栄養学を中心とした内容、身体計測、血液データからの情報収集 ３　病態別（疾患別）の栄養管理 ・主に糖尿病、高血圧、褥瘡などを例にして留意すべき点 ４　補足、ふり返り、まとめ ・講義を通してのまとめ （薬理学） １　薬理学総論：医薬品とその適切な使用の根拠となる薬理学の基礎知識を深め、薬物療法の基礎概念を学ぶ。 ・医薬品の分類と法律・作用原理について（薬物動態・薬物代謝を含む） ・好ましくない副作用（有害作用）と薬物相互作用 ・リスクマネージメント（多剤服用症状を含む）と薬物依存・耐性 ２・感染症、炎症の制御と薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 ・神経疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 ３・循環器系疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 ４　・精神疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 ・注意すべき頻用される薬物と要点チェック：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、　及び使用法について学ぶ。併せて講義の要点を復習する。　※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（栄養学）授業態度２０％、筆記試験８０％を行い、評価する （薬理学）筆記試験（薬物学分野：１００％）を行い、評価する。		
教科書 Textbooks	リハベーシック　薬理学・臨床薬理学　医歯薬出版		
備 考 Other Comments	（栄養学）プリントを使用して授業を進める		

科目名 Course title	臨床検査学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	山本　知子（講義・実験:筋電図） 竹村　京子（実験:脳波）	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives （予定）	人は様々な身体機能、精神機能を一連に行いながら生命活動を営んでいる。そこで、個体の実際の身体状況を知るため、生化学および生理学検査により情報を数値化・データ化・図示化して状況を把握し、さらに臨床的に血液検査やレントゲン検査、運動機能検査、感覚機能検査、脳波測定などを行って、詳細な身体情報を得て療法のより適切な対応をすることは重要である。 作業療法士においては、解剖運動生理学、その他の専門基礎科目や専門科目から基礎知識を学ぶとともに、生化学・生理学的なデータを観察して人体をより詳細に理解することが大切である。 当科目では、①筋電測定（運動機能の基本的な要素である「筋肉」の動き）②脳波測定（意識レベルを反映する「大脳皮質で発生する電気信号」）を実験的に記録観察して、身体の運動機能・精神機能についてより一層の理解を深めることを目的とする。		
授業計画 Course Content （予定）	１　筋電図、誘発筋電図の発生メカニズムについて（その１） ２　筋電図、誘発筋電図の発生メカニズムについて（その２） ３　実習　誘発筋電図、M―H 波（その１） ４　実習　誘発筋電図、M―H 波（その２） ５　脳波発生のメカニズムについて（その１） ６　脳波発生のメカニズムについて（その２） ７　（実習）ヒトの脳波の記録・観察（その１） ８　（実習）ヒトの脳波の記録・観察（その２） ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（予定）本講座は、各専門職の講師によるオムニバス形式で進める。 講師ごとに筆記試験並びにレポート課題を行い、評価する。		
教科書 Textbooks	（予定）「生理学テキスト第８版」文光堂		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	救急医療概論（喀痰吸引を含む）	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives （予定）	本講義、救急医療体制について学び、救急医療時の対応について実技も交えながら実施していく。また、救急医療現場だけでなく、その後のリハビリテーションにおいて必要とされる画像診断について学ぶ。さらに、喀痰・吸引の実践につながるように、実技を交えながらその概要について学習する。 到達目標は、救急医療を理解すること、画像診断について説明でき、喀痰吸引を模擬実践できることを想定している。		
授業計画 Course Content （予定）	１　（救急）救急医療体制とトリアージとは ２　（救急）心肺停止に対する一時救命処置（実習あり） ３　（画像）画像検査について ４　（画像）レントゲンの見方（一般） ５　（画像）レントゲンの見方（CT） ６　（画像）MRI の特徴と見方 ７　（吸引）嚥下機能と喀痰吸引の基礎知識 ８　（吸引）喀痰・吸引の実践（実技） ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（予定）本講座は、各専門職の講師によるオムニバス形式で進める。 講師ごとに筆記試験並びにレポート課題を行い、評価する。 １・２回　井上先生：授業後半の実習でチームワーク、声、手技等を評価します。		
教科書 Textbooks	（予定）なし		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	**内科学Ⅰ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	栗岡　英行	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	リハビリテーションが必要とされる患者さんでは、脳神経や筋骨格系の疾病のみならず種々の内臓疾患に罹患していることが多い。より有効なリハビリテーションを実施するためには、それら内臓疾患についての理解が不可欠である。 内科学では、これまでに履修した解剖学、生理学、病理学の知識をもとに、様々の疾患について病態生理から症状、診断法（様々な検査を含む）、治療法、予後などを学ぶ。 特に臨床現場で頻回に遭遇する疾患について理解を深めるとともに、過去の国家試験問題にも留意しながら学習をすすめる。さらに医療従事者の一員として必要とされる一般的な医学的知識の習得にもつとめる。		
授業計画 Course Content	１　内科学総論；内科学とは、主な疾患 ２　診療の基本；カルテと問診 ３　診察法（１）；バイタルサインの見方・考え方 ４　診察法（２）；身体所見の取り方と疾患 ５　内科的検査法、主な症候、治療法の進歩 ６　循環器疾患（１）；循環器解剖生理の復習、高血圧と低血圧、ショック ７　循環器疾患（２）；動脈硬化と虚血性心疾患（①） ８　循環器疾患（３）；虚血性心疾患（②）、心不全 ９　循環器疾患（４）；不整脈 １０　循環器疾患（５）；様々な心疾患（弁膜症、心筋疾患、先天性心疾患など） １１　循環器疾患（６）；動脈・静脈疾患、リンパ系疾患 １２　呼吸器疾患（１）；呼吸器解剖生理の復習、呼吸器検査と症候 １３　呼吸器疾患（２）；病原微生物と呼吸器感染症 １４　呼吸器疾患（３）；閉塞性肺疾患と拘束性肺疾患 １５　呼吸器疾患（４）；その他の肺疾患（腫瘍、胸膜疾患など）と呼吸不全 ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト（授業時間内）と期末試験による		
教科書 Textbooks	「なるほどなっとく！内科学」南山堂		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	医師として臨床経験３６年の経験を有する。		

科目名 Course title	**内科学Ⅱ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	栗岡　英行	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	リハビリテーションが必要とされる患者さんでは、脳神経や筋骨格系の疾病のみならず種々の内臓疾患に罹患していることが多い。より有効なリハビリテーションを実施するためには、それら内臓疾患についての理解が不可欠である。 内科学では、これまでに履修した解剖学、生理学、病理学の知識をもとに、様々の疾患について病態生理から症状、診断法（様々な検査を含む）、治療法、予後などを学ぶ。 特に臨床現場で頻回に遭遇する疾患について理解を深めるとともに、過去の国家試験問題にも留意しながら学習をすすめる。さらに医療従事者の一員として必要とされる一般的な医学的知識の習得にもつとめる。		
授業計画 Course Content	１　消化管疾患（１）；消化器解剖生理の復習、口腔～小腸までの疾患 ２　消化管疾患（２）；大腸～肛門までの疾患、消化器腫瘍 ３　肝臓・胆嚢・膵臓疾患（１）；肝臓・胆嚢・膵臓解剖生理の復習、肝炎・肝硬変・肝癌ほか ４　肝臓・胆嚢・膵臓疾患（２）；胆石・胆嚢炎、膵炎、膵癌など ５　代謝性疾患（１）；糖尿病 ６　代謝性疾患（２）；肥満症・メタボリック症候群・脂質異常症・痛風・骨粗鬆症など ７　内分泌疾患　　；内分泌解剖生理の復習、主な内分泌疾患 ８　血液疾患（１）；血液解剖生理の復習、貧血 ９　血液疾患（２）；血液の腫瘍、造血幹細胞移植、出血性疾患 １０　アレルギー・膠原病疾患（１）；アレルギー総説、主なアレルギー疾患 １１　アレルギー・膠原病疾患（２）；自己免疫疾患総論、主な膠原病疾患 １２　腎・泌尿器科疾患（１）；腎・泌尿器の解剖生理の復習、腎不全と透析・移植療法 １３　腎・泌尿器科疾患（２）；主な腎疾患・泌尿器科的疾患 １４　感染症（１）；感染症総論（感染経路、感染予防対対策、治療法など） １５　感染症（２）；感染症各論（代表的な感染症） ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト（授業時間内）と期末試験による		
教科書 Textbooks	「なるほどなっとく！内科学」南山堂		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	医師として臨床経験３６年の経験を有する。		

科目名 Course title	**神経内科学Ⅱ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	森下　真次	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	神経内科学の各論として各疾患について医学的な理解を深める。		
授業計画 Course Content	１　脳血管障害 ２　中枢神経感染症 ３　パーキンソン病 ４　パーキンソニズム ５　不随意運動症 ６　痴呆性疾患 ７　てんかん ８　脊髄小脳変性症 ９　運動ニューロン疾患 １０　脱髄性疾患 １１　脊椎・脊髄疾患 １２　末梢神経疾患 １３　ミオパチー １４　自律神経疾患① １５　自律神経疾患② ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	学期末のテストで評価する。		
教科書 Textbooks	「病気がみえる⑦　脳・神経 第２版」メディックメディア		
備 考 Other Comments	講義ごとにプリントを配布		
実務経験内容	医師として臨床経験３９年の経験を有する。		

科目名 Course title	**精神医学Ⅱ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	小澤　裕子	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives （予定）	・作業療法士として必要な精神医学の知識を身に付ける		
授業計画 Course Content （予定）	１　気分障害① ２　気分障害② ３　統合失調症① ４　統合失調症② ５　統合失調症③ ６　薬物依存① ７　薬物依存② ８　神経症性障害① ９　神経症性障害② １０　てんかん １１　知的障害 １２　成人のパーソナリティ １３　精神障害の治療とリハビリテーション １４　精神科保健医療と福祉・職業リハビリテーション １５　社会・文化とメンタルヘルス		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験		
教科書 Textbooks	標準理学療法学・作業療法学 精神医学　第４版増補版　　医学書院		
備 考 Other Comments			
実務経験内容			

科目名 Course title	整形外科学Ⅰ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	寺西　朋裕	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	整形外科の基礎を修得の上、臨床応用への対応を学ぶ。続いて日常診療で遭遇する運動器疾患について学ぶ。		
授業計画 Course Content	１　整形外科的基礎知識 ２　整形外科治療法 ３　整形外科疾患総論 ４　炎症性疾患 ５　代謝・退行性疾患 ６　先天性疾患① ７　先天性疾患② ８　循環障害と壊死疾患① ９　循環障害と壊死疾患② １０　骨・軟部腫瘍① １１　骨・軟部腫瘍② １２　神経・筋疾患① １３　神経・筋疾患② １４　脊椎の疾患① １５　脊椎の疾患② ※前年度実績		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	講義終了後、試験を行って評価する。		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　整形外科学　第５版」医学書院 「標準整形外科学　第１５版」医学書院		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	医師として臨床経験３１年の経験を有する。		

科目名 Course title	整形外科学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	寺西　朋裕	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	脊髄疾患、外傷性疾患について学び、臨床能力のさらなる向上を図る。		
授業計画 Course Content	１　骨折① ２　骨折② ３　脊髄損傷① ４　脊髄損傷② ５　脊髄損傷問題 ６　捻挫・脱臼 ７　神経障害① ８　神経障害② ９　末梢神経損傷 １０　腱・靭帯損傷 １１　スポーツ障害① １２　スポーツ障害② １３　タナ障害 １４　熱傷 １５　切断・離断 ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	講義終了後、試験を行って評価する。		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　整形外科学　第５版」医学書院 「標準整形外科学　第１５版」医学書院		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	医師として臨床経験３１年の経験を有する。		

科目名 Course title	**小児科学**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	西野　正人	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	臨床経験を多く入れて症例を通して疾患概念を理解してもらいたい 小児の成長障害をきたす様々な症例を紹介し、合わせて小児科学概論、栄養、保健（健診等）についても随時触れてゆきたい。代謝疾患、内分泌疾患についても触れる。		
授業計画 Course Content	１　小児の成長障害をきたす様々な症例を紹介し、内分泌・代謝性疾患への理解を深める ２　血液・免疫・救急・膠原病に関する理解を深める ３　免疫・膠原病・腎・泌尿器疾患 ４　感染症・消化器疾患 ５　新生児・未熟児疾患、先天異常と遺伝症 ６　神経・筋・骨系疾患 ７　循環器疾患、呼吸器疾患 ８　習癖・睡眠関連疾患・心身医学的疾患・虐待、重症心身障害児 ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　小児科学　第６版」医学書院		
備 考 Other Comments			

＝保健医療福祉とリハビリテーション理念＝

科目名 Course title	リハビリテーション制度論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永宣典・勝村智加・中野里佳	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	この科目では、リハビリテーションを支える諸制度について学ぶ。具体的には、国の社会保障制度の枠組み、制度の中でも特にリハビリテーションに関連する制度をみていく。さらに、近年構築されてきている地域包括ケアシステムおよび自立支援・就労支援に関する制度や制度を用いて行われている取り組みについて話す。 到達目標は、講義でとらえる諸制度について概要を説明できるようになること、対象者が使用できる制度とそのサービスについて理解することである。		
授業計画 Course Content	１　社会保障制度 Ⅰ.社会保障制度のなりたち　II.社会保険制度　III.社会保障の財源 ２　医療保険制度 Ⅰ.医療保険の仕組み　II.医療提供体制 ３　医療保険制度 III.診療報酬(診療報酬とその請求、リハビリテーションに関する診療報酬) ４　介護保険制度 Ⅰ.介護保険制度（介護保険制度の目的、制度創設の背景、制度の特徴、国民の義務） II.介護保険のしくみ ５　介護保険制度 III 介護保険給付サービスの種類 IV.介護報酬（介護報酬とその請求、リハビリテーションに関する介護報酬） ６　障害者・障害児サービスと就労支援 Ⅰ.障害者手帳（身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳） II.障害者総合支援法（制定された経緯、概要） III.各種サービスと療法士のかかわり IV.就労支援に関する施設と内容 ７　予防・保健 Ⅰ.行政におけるリハビリテーション II.行政リハビリテーション専門職の役割　III.介護予防、保健指導、地域ケア会議 ８　まとめ ※前年度実績		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験（１０割）を実施する。		
教科書 Textbooks	斉藤秀之、能登真一 編：リハビリテーション管理学.医学書院,２０２０		
備 考 Other Comments	複数教員によるオムニバス形式		
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験９年の経験及び専任教員２８年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験７年の経験及び専任教員７年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験２１年の経験及び専任教員４年の経験を有する。		

＝作業療法評価学＝

科目名 Course title	生活行為向上マネジメント	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋和奈	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／演習	実務経験 Experience	
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	生活行為向上マネジメントの開発背景や構造を知る。 事例を通して、情報を整理し対象者の全体像や取り巻く環境との関係について考察する。また、どの様なマネジメント方法があるかを検討していく。 到達目標は、生活行為と生活行為の障害について説明できること、生活行為向上マネジメントのプロセスおよび各種シートの使い方を説明できること、各種シートの記載ができることである。		
授業計画 Course Content	１　オリエンテーション、開発の背景、用語の解説 ２　生活行為と生活行為の障害、各種シートの使い方 ３　演習①模擬事例 ４　演習②模擬事例 ５　演習③模擬事例 ６　演習④模擬事例 ７　演習⑤模擬事例 ８　演習⑥模擬事例、まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（課題の発表および提出）		
教科書 Textbooks	「事例で学ぶ生活行為向上マネジメント第２版」医歯薬出版株式会社		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験１５年の経験及び専任教員１０年の経験を有する。		

科目名 Course title	**作業療法評価演習**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	学科全教員	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／２単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	仮想の症例について、作業療法評価計画を立案から作業療法評価レポートの作成までを演習する。その際、演習に必要な資料・文献等の収集学習や、専門基礎科目と専門科目の知識を関連づけながら思考していく論理学習等を同時に演習し、臨床実習への準備を整える。		
授業計画 Course Content	（４５時間で行う） １　ケースレポートの書き方 ２　レポートを書くときの注意事項 ３　ゼミ形式で担当教員の指導の下、レポートを完成させる。 ４　実習セミナーに参加し、発表を傾聴し作業療法評価について考える。 ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	期日までに提出されたケースレポート及び演習中の取り組みについて評定する。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験９年の経験及び専任教員２８年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験１５年の経験及び専任教員１０年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験７年の経験及び専任教員７年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験６年の経験及び専任教員５年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験２１年の経験及び専任教員４年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験８年の経験及び専任教員１年の経験を有する。		

科目名 Course title	**作業療法評価技法Ⅲ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋　和奈	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	６０時間／演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	徒手筋力検査法について学びます。教科書的な技術を丸暗記するだけでなく、原理原則をしっかりと学ぶことで、対象者にあわせて対応できるようになることが目標です。環境設定、オリエンテーション、測定肢位など臨床的な技法も適宜取り入れながら講義を進めていきます。		
授業計画 Course Content	１　オリエンテーション・学力確認テスト ２　徒手筋力検査における基本原則 ３　下肢・体幹筋の総復習、下肢・体幹体表解剖 ４　股関節の筋 ５　股関節の筋 ６　股関節の筋 ７　股関節の筋 ８　膝関節の筋 ９　膝関節の筋 １０　足関節の筋 １１　足関節の筋　　・・・・・・・・・実技試験 １２　頚部の筋 １３　頚部・体幹の筋 １４　頚部・体幹・骨盤の筋 １５　体幹・骨盤の筋　　・・・・・・・・・実技試験 １６　上肢筋の総復習、上肢帯体表解剖 １７　肩関節の筋 １８　肩関節の筋 １９　肩関節の筋 ２０　肩甲骨の筋 ２１　肩甲骨の筋 ２２　肩甲骨の筋 ２３　肘関節・前腕の筋 ２４　肘関節・前腕の筋 ２５　肘関節・前腕の筋 ２６　手関節の筋 ２７　手関節の筋　　・・・・・・・・・実技試験 ２８　指の筋 ２９　指の筋 ３０　指の筋　　・・・・・・・・・実技試験		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	単位認定は、実技試験と終講時の筆記試験で実施する。ただし、本授業は医療現場での実践を想定しているため、受講態度、実習に不適切な風貌、は減点対象となる。本講義で行う実技試験は授業中ならびに後に定める実技試験の期間中に合格すること。		
教科書 Textbooks	「新・徒手筋力検査法　原著　第１０版」協同医書出版 「ID 触診術　第２版」三輪書店		
備 考 Other Comments	実技が身につくまでには多くの練習時間を要する。学生同士技術を磨きあってほしい。講義内容・実技の方法などが分からない場合は積極的に教員に質問して補習などを受けること。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験１５年の経験及び専任教員１０年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業療法評価技法Ⅳ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	小澤　裕子	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives （予定）	自分というフィルターを通して他者を観察・評価していくことを体験し、意識化・実務経験化する。 ワーク中心。		
授業計画 Course Content （予定）	（３０時間で行う） １　精神科領域の評価とは ２　主観と客観 ３　自分を知る ４　ペルソナ ５　コミュニケーション ６　言動の評価 ７　情報の取り扱い方 ８　ものがたり ９　疾患について １０　観察 １１　面接 ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	課題点＋試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験１９年の経験及び教員７年の経験を有する。		

＝作業療法治療学＝

科目名 Course title	**精神障害作業療法総論**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村　智加	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	精神障害関連領域における基礎的な知識の整理（精神科医療の歴史、関係法規、社会資源、リスク管理、関連理論など）と障害特性、評価の特性を考える。		
授業計画 Course Content	１　精神障害とは・精神障害者の処遇の歴史・関連法規 ２　自己理解とは？ ３　精神障害論・特性　ICF ４　精神疾患の生活のしづらさ・妄想・幻覚等症状の種類や特徴 ５　評価の流れと評価手段①　面接法体験 ６　評価の流れと評価手段②　箱作り体験　REHAB, LASMI 等評価バッテリー ７　精神科 OT の治療構造　回復段階 ８　人と場・集団　治療因子と構造因子・集団の発達レベル ９　作業の分類　目的としての作業・手段としての作業 １０　地域精神科医療（訪問・ACT） １１　リカバリーモデル・ストレングスモデル・エンパワーメント １２　就労支援① １３　就労支援② １４　認知行動療法：SST・ディベート体験 １５　まとめ　※前年度実績		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験にて行う。		
教科書 Textbooks	ゴールドマスターテキスト「精神障害作業療法学」メジカルビュー社		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験７年及び教員７年の経験を有する。		

科目名 Course title	老年期障害作業療法総論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	名倉　和幸	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	本邦の総人口は 1 億 2,711 万人（2015 年時点）だが、65 歳以上の高齢者人口は 3,392 万人を数える。総人口に占める 65 歳以上人口の割合（高齢化率）は 26.7%であり、世界に類を見ない超高齢化社会である。総人口が減少するなかで高齢化率は上昇を続け、2060 年には高齢化率は 39.9%に達し、2.5 人に 1 人が 65 歳以上となる見通しである。 この様な環境の中、国や都道府県、各市町村自治体は地域包括ケアシステムの整備をすすめるとともに、要支援認定者や事業対象者（いわゆる軽度者）の支援のあり方とリハビリテーション専門職等の関与について様々な議論をおこなっている。本講座ではこれらの取り組みを解説し、高齢者の特性や尊厳をふまえた支援について検討することで高齢者領域における作業療法のあり方を考察する。		
授業計画 Course Content	（３０時間で行う） １・２　高齢者の特徴と理解（市民向け講座から） ３・４　日本のこれからと地域包括ケアシステム ５・６　地域支援事業と総合事業/リハ職同行訪問アセスメント ７・８　短期集中予防サービス/軽度者支援の実際と作業療法 ※５～８を「これからの軽度者支援」として講義 ９・10　高齢者支援の実際（各専門職の関わり、紹介など）　その１ ・介護支援専門員（ケアマネジャー） ・地域包括支援センター ・言語聴覚士、歯科衛生士（口腔プログラム） ・管理栄養士（栄養改善プログラム） 11・12　高齢者支援の実際（各専門職の関わり、紹介など）　その２ ・リハビリテーションの目指すもの ・作業療法士（MTDLP も含めた） ・理学療法士（運動器の向上プログラム） 13・14　自立支援を目的とした軽度者支援について 事例検討と演習 15　まとめ（1～14 の要約と説明、3 年生の地域作業療法学へのつなぎなど）※前年度実績		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks			
備 考 Other Comments			
実務経験内容			

科目名 Course title	**発達障害作業療法総論**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	中野　里佳	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	【一般目標】 発達障害の各論を学ぶのに必要となる、発達障害の病態や種類、作業療法の基本的な考え方を理解する。 【行動目標】 ①　基本的な原始反射を理解する。 ②　定型発達の運動、感覚、遊びなどの概要を理解する。 ③　脳性まひ児の種類や病態を理解し、作業療法の考え方を理解する。 ④　進行性筋ジストロフィー、ダウン症、二分脊椎の作業療法の考え方を理解する。 ⑤　自閉症スペクトラム障害の種類や病態、作業療法の考え方を理解する。 ⑥　発達検査の概要や意義を理解し、必要な検査が選択できるようになる。 ⑦　感覚統合など主な理論の概要を理解する。		
授業計画 Course Content	１　原始反射 ２　定型発達（粗大運動）① ３　定型発達（粗大運動）② ４　定型発達（巧緻運動）③ ５　定型発達（感覚・知覚・認知機能） ６　定型発達（ADL） ７　定型発達（遊び・社会性） ８　発達検査 ９　脳性まひ児の病態、種類や特性 １０　脳性まひ児の作業療法 １１　自閉症スペクトラム障害の病態や特性 １２　自閉症スペクトラム障害の作業療法 １３　感覚統合、応用行動分析など １４　知的障害、進行性筋ジストロフィー、二分脊椎などの作業療法 １５　まとめ ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト、単位認定試験		
教科書 Textbooks	「Cross basic リハビリテーションテキスト　人間発達学」メジカルビュー 「作業療法学　発達障害作業療法学　第３版」メジカルビュー		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験２１年及び専任教員４年の経験を有する。		

科目名 Course title	**疾患別作業療法Ⅰ** **（発達疾患Ⅰ）**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	黒澤　淳二	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives （予定）	整形疾患、重症心身障害を中心とした疾患別の障害特性及び作業療法の進め方について、講義及びグループワークによって理解を深める。		
授業計画 Course Content （予定）	１　DMD 児・者の概要および治療 ２　DMD 児・者についてグループワーク、発表 ３　重症心身障害児・者の概要および治療 ４　重症心身障害児・者についてのグループワーク、発表 ５　二分脊椎児・者の概要および治療 ６　二分脊椎児・者についてグループワーク、発表 ７　骨関節疾患児・者の概要および治療 ８　骨関節疾患児・者についてのグループワーク、発表 ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（予定）試験　１００％		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験３３年の経験を有する。		

科目名 Course title	**疾患別作業療法Ⅱ** **（発達疾患Ⅱ）**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	加藤　雅子	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives （予定）	脳性麻痺についての概要、および障害特性によって分類されたタイプ別に、視聴覚教材を用いて臨床像や基本的問題点を確認し、障害特性のイメージと理解につなげる。また、それらの障害が、発達過程におよぼす影響についても講義し、評価～作業療法のアプローチポイントを理解する。		
授業計画 Course Content （予定）	１　脳性麻痺についての概要① ２　脳性麻痺についての概要② ３　脳性麻痺　痙直型両麻痺① ４　脳性麻痺　痙直型両麻痺② ５　脳性麻痺　痙直型片麻痺① ６　脳性麻痺　痙直型片麻痺② ７　脳性麻痺　アテトーゼ型・失調型① ８　脳性麻痺　アテトーゼ型・失調型② ※前年度実績		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（予定）筆記試験および出席状況		
教科書 Textbooks	（予定）なし 資料を配布		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験７年及び教員３０年の経験を有する。		

科目名 Course title	**疾患別作業療法Ⅲ** **（精神疾患）**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村　智加	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	精神疾患別の障害特性、作業療法の進め方について		
授業計画 Course Content	1　精神科の基礎知識① 2　精神科の基礎知識② 3　統合失調症の OT① 4　統合失調症の OT① 5　気分障害の OT① 6　気分障害の OT② 7　各種依存症の OT 8　神経性障害の OT 9　てんかんの OT 10　薬物療法 11　模擬症例の評価計画(GW) 12　精神科でかかわることのある発達障害① 13　パーソナリティ障害の OT① 14　パーソナリティ障害の OT② 15　模擬症例　評価計画発表		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	発表（40 点満点）筆記試験（60 点満点）		
教科書 Textbooks	中央法規：疾患の理解と精神科作業療法 その他：適宜資料配布		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	勝村教員：作業療法士として臨床経験７年及び教員７年の経験を有する。		

科目名 Course title	**疾患別作業療法Ⅳ** **（老年期疾患）**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村　智加	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	高齢期分野に多い疾患やそれに対応するアプローチなどを学ぶ。また超高齢化社会となっている我が国における高齢期分野の根底となりつつある地域包括ケアシステムなどについて知り、どのような支援を行うべきなのかを考える。		
授業計画 Course Content	1　高齢期分野とは・・・老人疾患の特徴、加齢と老化 介護保険とその流れ　高齢マネジメント・地域包括ケアシステム 2　認知症とは・・・認知症全般に関連する症状・疾患など 認知症のリハビリテーションと関わり方①アルツハイマー型認知症/脳血管性認知症 3　認知症のリハビリテーションと関わり方②レビー小体型認知症/前頭側頭型認知症/その他認知症 4　HDS-R と MMSE　特徴・実技など。その他高齢期に関連する評価スケール 5　認知症の OT でよく使われる手法　脳トレ体験 6　高齢者の運動器疾患とリハビリテーション①　骨折と置換術/骨折の合併症/脱臼肢位 7　運動器不安定症・ロコモティブシンドローム 8　フレイル・サルコペニア　口腔体操体験 9　廃用症候群/誤用症候群/過用症候群 10　廃用への対応①　CVA・廃用からの脱臼等の患部保護について。三角巾での保護実技 11　廃用への対応②　軽運動（棒体操）/ROMex 12　呼吸リハ① 13　呼吸リハ②　呼吸介助・胸郭ストレッチ　体験 14　地域リハ① 15　地域リハ② ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	老人のリハビリテーション　医学書院		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験７年の経験及び専任教員７年の経験を有する。		

科目名 Course title	**疾患別作業療法Ⅴ** **（脳血管疾患）**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	髙橋　敏明	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	脳血管障害患者は生活習慣病の中の代表的疾患であり、医療・保健・福祉の各分野におけるリハビリテーション、とりわけ作業療法部門においては避けることの出来ない対象である。 脳血管障害に関する発生機序、心身に及ぼす障害について理解し、対応するリハビリテーションプロセス（リハビリテーション評価の流れ、心身機能、生活障害の程度を測る各手法、対象者のリハビリテーション課題を探るポイント、社会復帰への目標設定など）について整理する。		
授業計画 Course Content	１　脳の機能解剖 ２　脳の機能局在 ３　脳血管障害の経過 ４　脳血管障害の分類 ５　脳血管障害による症状① ６　脳血管障害による症状② ７　画像診断　CT ８　画像診断　MRI ９　ブルーンストロームとは １０　上田の１２段階評価とは １１　上田の１２段階　実技　上肢 １２　上田の１２段階　実技　下肢 １３　上田の１２段階　実技　手指 １４　手指機能検査　STEF　ペグ １５　作業療法評価指針① １６　作業療法評価指針② １７　ADL 評価　バーセルインデックス １８　ADL 評価　FIM １９　ポジショニング実技 ２０　片麻痺の基本動作 ２１　片麻痺の応用動作 ２２　作業療法治療指針 ２３　まとめ 上記の進行に沿って、座学・実技を交えて講義する。 一項目が複数回に亘ることもあり、学生にはその都度、特に実技準備品について事前連絡を講師より行う。 ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①出席率　②課題レポートの内容　③筆記試験の採点　④授業態度		
教科書 Textbooks			
備 考 Other Comments	パソコン・プロジェクター使用		
実務経験内容	作業療法士として教員３年及び臨床３４年の経験を有する。		

科目名 Course title	**疾患別作業療法Ⅵ** **（整形疾患）**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／２単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	・　手の機能解剖について理解する ・　手の外科領域の専門用語について理解する ・　手術法、術後療法、リスク管理について理解する ・　標準的訓練プログラムについて理解する ・　臨床実習および卒後診療に最低限必要な技術、知識を習得する		
授業計画 Course Content	１　整形 OT とは、骨の機能、成長、新陳代謝、関節、関節の機能、筋、末梢神経 ２　疼痛、変形、拘縮、強直、動揺関節 ３　整形外科診断と検査、保存療法、手術療法 ４　骨折総論① ５　骨折総論② ６　骨折総論③ ７　骨折総論④ ８　橈骨遠位端骨折① ９　橈骨遠位端骨折② １０　橈骨遠位端骨折③ １１　腱損傷① １２　腱損傷② １３　腱損傷③ １４　腱損傷④ １５　切断① １６　切断② １７　切断③ １８　切断肢の作業療法訓練 １９　熱傷 ２０　末梢神経損傷① ２１　末梢神経損傷② ２２　関節リウマチ① ２３　関節リウマチ② ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「リハ実践テクニック　ハンドセラピィ」メジカルビュー社 「リハ実践テクニック　関節リウマチ　　改訂第２版」メジカルビュー社		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験９年及び専任教員２８年の経験を有する。		

科目名 Course title	**疾患別作業療法Ⅶ** **（難病）**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	髙橋　敏明	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	「難病」とはその名のとおり、根本的治療法が未だ確立されていない疾患の総称で、 医療・保健・福祉の分野ではケアに長期間を要する。授業では以下の理解を深める。 ①　難病疾患に関する社会支援制度、とりわけ公的介護保険制度との関係について、 ②　代表的な神経難病についての疫学、症状、リハビリ評価、対応について整理する。		
授業計画 Course Content	１　神経難病とは ２　神経難病に関する医療、福祉制度 ３　パーキンソン病とは ４　パーキンソン病の評価、作業療法 ５　多発性硬化症 ６　脊髄小脳変性症 ７　廃用症候群について ８　まとめ ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①　欠席状況、遅刻・早退 ②　定期試験採点 ③　授業態度　　等で評価いたします。		
教科書 Textbooks	講師作成プリント・スライド		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として教員３年及び臨床経験３５年の経験を有する。		

科目名 Course title	**疾患別作業療法Ⅷ** **（高次脳機能障害）**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村　智加	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	高次脳機能について概説をした上で、諸症状別に内容及び作業療法による介入方法を知る。高次脳機能障害の各症状と作業機能障害との関連性を考え、介入方法を検討できるようになる。		
授業計画 Course Content	1　高次脳機能って？脳の局在？脳の発達と高次脳機能 2　失語症の OT① 3　失語症の OT②　ブローカー　ウェルニッケ　動画 4　失行症の OT　　コース立方体体験 5　失認症の OT① 6　失認症の OT② 7　ＵＳＮの OT① 8　ＵＳＮの OT②　BIT 標準検査体験 9　記憶障害の OT 10　注意障害の OT① 11　注意障害の OT②　TMT　かなひろい　ハノイの塔　レイ複雑図形　体験 12　遂行機能障害の OT① 13　遂行機能障害の OT② 14　遂行機能障害に関する検査　FAB とは？BADS とは？　FAB・ストループ・動物園地図課題など体験 15　プッシャー現象は高次脳機能障害？？　　振り返り・まとめ ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（１００％）		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学　専門分野　高次脳機能作業療法学　第２版」医学書院 「リハビリテーションにおける　評価法ハンドブック　- 障害や健康の測り方 - 」医歯薬出版		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験７年及び専任教員７年の経験を有する。		

科目名 Course title	**疾患別作業療法Ⅸ** **（脊椎損傷）**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives （予定）	脊髄損傷の症状の特性を理解し、作業療法での評価・治療を含め、リハビリテーションチームとしての関わりや社会復帰についての OT アプローチ等を学習する。		
授業計画 Course Content （予定）	１　脊髄損傷とは ２　麻痺の特性と随伴症状について ３　受傷原因、急性期の症状と対処 ４　急性期におけるリハビリテーション ５　合併症とその管理について ６　脊髄損傷者の基本動作 ７　脊髄損傷者の車いすや移乗方法について ８　評価と訓練計画 ９　食事、整容動作 １０　排泄動作 １１　更衣、入浴動作 １２　住宅改修の特徴と福祉機器 １３　脊髄損傷の損傷髄節レベル別の ADL の特徴 １４　作業療法の具体的支援方法 １５　症例検討 ※前年度実績		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（予定）出席状況、授業態度、筆記試験。		
教科書 Textbooks	（予定）「頸髄損傷のリハビリテーション　改訂第３版」協同医書出版		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	**動物介在療法Ⅱ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	山本　妃呂己、磯脇　知世	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives （予定）	【講義概要】 すでに１年次後期の動物介在療法Ｉでは、馬介在療法（Horse-assisted Therapy）について概論的に学び、馬の特徴、人と馬の関係、人と馬の類似点、馬のリハビリテーションへの活用方法、馬と社会資源などについて大まかに知識を得た。 この講義では、実際に馬介在療法を児童福祉施設で実践・活用している理学療法士、作業療法士をお招きし、馬介在療法の上でどのように実施して理学療法、作業療法を実践するのか、実践例や実技を交えて学んでいく。また、理学療法士、作業療法士が馬介在療法を使って支援する際、どのように評価、プログラム立案をするのか、その考え方の基礎を学ぶ。さらに、馬介在療法を実践する際は、数名のスタッフが連携して実施することが多いため、その際の多職種連携についても学ぶ。 【到達目標】 ①　馬介在療法を実践する上での理学療法的な評価の視点を理解する。 ②　馬介在療法を実践する上での作業療法的な評価の視点を理解する。 ③　馬介在療法を実践する上での支援の基本的な考え方を理解する。 ④　リハ職が馬介在療法を実践する際の多職種の連携を理解する。		
授業計画 Course Content （予定）	１　馬介在療法と理学療法について 理学療法士が馬介在療法を実践するとはどういうことか、専門性は何かについて学ぶ。 ２　馬介在療法を介しての理学療法評価上の視点について 特に基本的な身体機能面を評価する際に重要な視点について学ぶ。 ３　馬介在療法を介しての理学療法評価についての実践例 実際に馬を活用しての実技を通して、馬介在療法における理学療法評価の視点を学ぶ。 ４　馬介在療法を介しての理学療法的支援について、多職種連携の視点について 理学療法計画を立てる際の重要な視点を学ぶ。また、馬介在療法は複数のスタッフで実践することが多いので、多職種の連携の必要性を学ぶ。 ５　馬介在療法と作業療法について 作業療法士が馬介在療法を実践するとはどういうことか、専門性は何かについて学ぶ。 ６　馬介在療法を介しての作業療法評価上の視点について 特に応用動作的な評価、精神機能面を評価する際に重要な視点について学ぶ。 ７　馬介在療法を介しての作業療法評価についての実践例 実際に馬を活用しての実技を通して、馬介在療法における作業療法評価の視点を学ぶ。 ８　馬介在療法を介しての作業療法的支援について、多職種連携の視点について 作業療法計画を立てる際の重要な視点を学ぶ。 また、馬介在療法は複数のスタッフで実践することが多いので、多職種の連携の必要性を学ぶ。 ※講義は、馬の体調や天候、学生の理解によって順番が変わることがある。 ※前年度実績		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（予定）主に講義態度（出席など）と筆記試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	馬を使った実践をするため、服装に留意すること。 動物アレルギーのある者は事前に申し出ること。		

科目名 Course title	日常生活活動学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋　和奈	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	日常生活活動、生活関連活動とは何か？個人がその人らしく『生活する』とはどういうことなのか？を学びます。各人を取り巻く環境は同じではなく、万人が行っている身の回りの活動ひとつとっても、その中に個別の「こだわり」が存在するものもある。そこに作業療法士が関わることで、対象者の生活をどのように取りもどし、援助していくのかを考えていきます。		
授業計画 Course Content	日常生活活動(ADL)と作業療法 １　オリエンテーション　「ADL」とは ／「日常生活とは」 ２　ADL とは　定義・概念・範囲について ３　基本動作と Self－care ４　Self－care の５項目について考える ５　「できる ADL」と「している ADL」 ６　ADL の自立と QOL ７　健常者の動作とは ８　ADL 動作と動作分析 ９　ADL 動作と動作分析 １０　生活関連活動について １１　日常生活活動の評価 ／ テストバッテリー １２　生活と文化的側面とは １３　疾患別 ADL について（呼吸器疾患） １４　疾患別 ADL について（脳血管疾患） １５　疾患別 ADL について（整形疾患） ※順番が変わることがある		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「作業療法学全書第１１巻 作業療法技術学３　日常生活活動　改訂第３版」 協同医書出版		
備 考 Other Comments	実技を行うことがあるため、基本的に動きやすい服装で受講すること。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験１５年及び専任教員１０年の経験を有する。		

科目名 Course title	**義肢学**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	橋本　寛	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／演習	実務経験 Experience	（義肢装具士）
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	義肢の概観を学び、リハビリテーションとの関連や基本原理を講義します。基本的な義肢装具の用語や概念が説明でき、基本原理を理解応用できるようになることを到達目標とします。見本や臨床例などを交えて講義を行います。アクティブラーニングの手法を織り交ぜて実施しますので、積極的に参加してください。また他の専門科目の知識を活用して理解を深めるようにしてください。		
授業計画 Course Content	※（　）内は教科書の章　例：１－１…第１章１ １　義肢総論（０－１，１－１）　義肢装具の位置づけ、義肢の歴史 ２　義肢総論２（１－３，４）　義足 ３　義肢総論３（１－２，５，６）　義手、基礎医学、臨床医学 ４　前腕義手（１－７） ５　上腕義手（１－８） ６　その他の義手（１－９，１０） ７　義手のチェックアウト（１－７，８） ８　義肢学まとめ ※・授業の進捗状況に応じて、進度を変更することがあります。 ・理解する項目や覚える事柄が多く出てきます。各回で復習をいれますので、丸写しにせず、“思い出す努力”をしながら理解し、ほかの人に説明できるようになってください。 ・適宜討論や発表、指名発言を求めますので、積極的に参加してください。		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	最終試験合計６０％以上を合格とします。試験範囲は教科書及び講義中の配布資料とします。		
教科書 Textbooks	「義肢装具学」作業療法学　ゴールド・マスター・テキスト　メジカルビュー社		
備 考 Other Comments	教科書を使用し、不足部分を講義の配布資料で補います。平常点は、授業への積極的な参加（発表、討議、質問）とします。		
実務経験内容			

科目名 Course title	**装具学**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永　宣典	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	上肢装具の機能、適応について教授し、代表的な装具に関しては採形から制作までを実施し、修正技術、適合判定技術を習得する。		
授業計画 Course Content	１　装具概論（装具とは、機能、適応） ２　装具の分類、目的、原理 ３　製作実習①　指用装具 ４　製作実習②　指用装具 ５　製作実習③　指用装具 ６　カックアップスプリント① ７　カックアップスプリント② ８　カックアップスプリント③ ９　カックアップスプリント④ １０　カックアップスプリント⑤ １１　カックアップスプリント⑥ １２　カックアップスプリント⑦ １３　カックアップスプリント⑧ １４　カックアップスプリント⑨ １５　カックアップスプリント⑩ １６　短対立装具① １７　短対立装具② １８　短対立装具③ １９　短対立装具④ ２０　短対立装具⑤ ２１　短対立装具⑥ ２２　短対立装具⑦ ２３　まとめ ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験　実技課題の提出		
教科書 Textbooks	イラストでわかる装具療法　医歯薬出版		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験９年及び専任教員２８年の経験を有する。		

科目名 Course title	**福祉用具支援技術論**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典 ・ 隅野 裕之	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	２０００年４月より介護保険制度も開始され、わが国でも福祉用具のレンタルや住宅改修が積極的に利用されつつあるが、まだ全体的な利用率は低い水準にとどまっている。本講座では作業療法士として必要な機器支援の方法、機器の使用法の基礎を学習する。		
授業計画 Course Content	１　福祉用具とは、背景、分類、ISO9999 ２　介護保険制度、貸与と特定福祉用具、作業療法士の役割 ３　機器使用者に対する支援、機器提供のプロセス ４　中間ユーザーとしての役割、福祉機器の情報 ５　車いす、電動車いす ６　車いすの種類、機能、機構 ７　移乗用具（ホイスト、吊具） ８　ベッドと周辺機器、テーブル ９　排泄のための機器 １０　入浴のための機器 １１　手すりスロープ １２　コミュニケーション機器 １３　起居関連用具②（マットレス、ベッド手すり、サイドレール） １４　起居関連用具③（寝返り補助用具、姿勢補助用具） １５　起居関連用具④（椅子、いす車、手すり） １６　起居関連用具⑤（ベッドの利点と欠点、寝具選択のポイント） １７　移動関連用具②（歩行器・歩行車、床上移動用具） １８　移動関連用具③（車いすの分類、自走用車いすの種類） １９　移動関連用具⑤（介助用車いす、チルト機構、リクライニング機構） ２０　移動関連用具⑥（電動車いす・電動化ユニット） ２１　移動関連用具⑦（車いすオプション・クッション） ２２　移動関連用具⑧（車いすの選択・車いすに求める要因） ２３　移動関連用具⑨（障害形態別移動法） ※前年度実績		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「作業療法学全書第１０巻　作業療法技術学２　改訂第３版　福祉用具の使い方・住環境整備」 協同医書出版 福祉用具支援論　財団法人テクノエイド協会		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験９年及び専任教員２８年の経験を有する。 隅野講師：作業療法士として臨床経験２３年の経験を有する。		

科目名 Course title	**福祉用具支援技術論演習**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	作業療法士の援助技術の一つとして自助具適応による生活能力の向上が上げられる。この講座では自助具に関する基本的な考え方と適応技術について学ぶ。 後半はいくつかの対応課題について実際に自助具を設計・作成し、材料の選択加工方法についても学ぶ。		
授業計画 Course Content	１　自助具とは基本的知識 ２　自助具の製作、注意点 ３　製作実習① ４　製作実習② ５　製作実習③ ６　製作実習④ ７　発表会 ８　まとめ ※前年度実績		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①実技（作品の提出） ②レポート ③筆記試験		
教科書 Textbooks	「作業療法学全書第１０巻　作業療法技術学２　改訂第３版　福祉用具の使い方・住環境整備」 協同医書出版 福祉用具支援論　財団法人テクノエイド協会		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験９年及び専任教員２８年の経験を有する。		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	**臨床見学実習Ⅰ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	身体障害・精神障害・発達障害・老年期障害の中から２つの領域において、臨床での作業療法場面を見学します。臨床実習指導者の指導のもと、初めて臨床で具体的なモデルを直接観察したり、会話をしたり、触れたりすることで、疾患像・障害像・患者像を明確にしていきます。 また、直接作業療法士の仕事ぶりを見学し、作業療法の流れや役割等を確認し、２年次後期課程に予定されている各領域での作業療法各論を効果的に学習できる態勢を整えていきます。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による） 感染症などにより公欠となった場合、実習期間外にて後日補充実習となる場合あり。また各実習施設にて実習困難な場合、状況によっては一部学内演習とする場合がある。		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習施設の評定と実習終了後のセミナーを含めて総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験９年の経験及び専任教員２８年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験１５年の経験及び専任教員１０年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験７年の経験及び専任教員７年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験６年の経験及び専任教員５年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験２１年の経験及び専任教員４年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験８年の経験及び専任教員１年の経験を有する。		

科目名 Course title	**臨床見学実習Ⅱ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	身体障害・精神障害・発達障害・老年期障害の中から２つの領域において、臨床での作業療法場面を見学します。臨床実習指導者の指導のもと、初めて臨床で具体的なモデルを直接観察したり、会話をしたり、触れたりすることで、疾患像・障害像・患者像を明確にしていきます。 また、直接作業療法士の仕事ぶりを見学し、作業療法の流れや役割等を確認し、２年次後期課程に予定されている各領域での作業療法各論を効果的に学習できる態勢を整えていきます。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による） 感染症などにより公欠となった場合、実習期間外にて後日補充実習となる場合あり。また各実習施設にて実習困難な場合、状況によっては一部学内演習とする場合がある。		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習施設の評定と実習終了後のセミナーを含めて総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験９年の経験及び専任教員２８年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験１５年の経験及び専任教員１０年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験７年の経験及び専任教員７年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験６年の経験及び専任教員５年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験２１年の経験及び専任教員４年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験８年の経験及び専任教員１年の経験を有する。		

科目名 Course title	**臨床評価実習**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／３単位
授業方法 Teaching Methods	１３５時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	本臨床評価実習の主目的は、前職業人として実習施設職員ならびに担当症例と望ましい人間関係を保ちながら、担当症例に対して必要な作業療法評価（情報収集、面接、観察、検査、測定）を実施し、全体像把握から問題点抽出、目標設定、暖助計画の立案までを学習することとします。総合臨床実習に向けて、今後の自己の学習課題を明確化することに主眼が置かれます。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による） 感染症などにより公欠となった場合、実習期間外にて後日補充実習となる場合あり。また各実習施設にて実習困難な場合、状況によっては一部学内演習とする場合がある。		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①　実習前評価（OSCE） ②　実習施設の評価 ③　実習終了後評価 上記①～③を以って総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験９年の経験及び専任教員２８年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験１５年の経験及び専任教員１０年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験７年の経験及び専任教員７年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験６年の経験及び専任教員５年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験２１年の経験及び専任教員４年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験８年の経験及び専任教員１年の経験を有する。		

講 義 概 要

2025 年度　作業療法学科
3 年生

阪奈中央リハビリテーション専門学校
作業療法学科

《専門分野》＝基礎作業療法学＝

科目名 Course title	**作業療法研究法**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	中野里佳	期間及び単位 Term/Credits	３年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	①作業療法研究の必要性と意義を説明できるようになる。 ②研究の種類とデザイン、統計について説明できるようになる。 ③論文の構成と記載すべき事項を説明できるようになる。 ④実証研究を実施しレポートを作成できるようになる		
授業計画 Course Content	１　作業療法研究、臨床倫理と研究倫理、臨床疑問と研究の種類概要 ２　研究の種類とデザイン（量的研究：観察研究、介入研究） ３　質的研究：混合法、事例を通した研究 ４　調査票の設計、尺度開発、文献研究、データベース研究 ５　研究対象者の選定、アウトカム ６　研究目的に応じた統計解析（概観） ７　実証研究実施 ８　実証研究実施		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験、レポート		
教科書 Textbooks	編集　山田孝：「標準作業療法学専門分野　作業療法研究法」. 医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験２１年の経験及び専任教員４年の経験を有する。		

＝作業療法管理学＝

科目名 Course title	**作業療法管理学Ⅰ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永宣典・中野里佳	期間及び単位 Term/Credits	３年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	講義概要 作業療法士としてだけではなく、職業人として部門を管理・運営していくには何が必要か。こうした問題意識を起点として、医療・介護保険・障害者総合支援法の制度概要と仕組みについてみていき、部門を管理するための視点を検討する。さらに、業務管理における書類作成など遵守事項や医療の質を高めつつリスクをマネジメントする方法について講義をしていく。 到達目標 ①診療報酬制度・介護報酬制度について理解し、概要について説明できるようになる ②診療報酬制度・介護報酬制度の改定情報を自身で得ることができるようになる ③業務管理について理解する ④医療の質、リスクマネジメントについて理解する		
授業計画 Course Content	１　社会保障制度の振り返りと制度・グループワークテーマの説明・ワーク開始 ２　医療保険制度の仕組みと作業療法部門・介護保険制度の仕組みと作業療法部門 ３　障害者総合支援法の仕組みと作業療法部門・予防、保健行政の仕組みと作業療法部門 ４　業務管理（前半）：病院・施設の組織、療法士の業務、コンプライアンス ５　業務管理（後半）：労務管理、組織マネジメント ６　医療の質とリスクマネジメント ７　ＥＢＭと診療ガイドライン ８　まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	教科書：斉藤秀之　能登真一 編集：リハビリテーション管理学.医学書院 参考資料：中村隆一・佐直信彦編集：入門リハビリテーション概論.医歯薬出版株式会社		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験９年の経験及び専任教員２８年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験２１年及び専任教員４年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業療法管理学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	宝田 愛	期間及び単位 Term/Credits	３年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	講義概要：保健医療専門職に求められる職業倫理や関連法規を理解し、リハビリテーションサービスを提供する上で必要な多職種連携・地域連携の基礎を学ぶ。また、作業療法士が保健医療専門職として社会の中で担う役割・知識・技術・学習理論・教育手段についても学ぶ。加えて感染症が社会にもたらす影響を理解し、その具体的な予防法について修得する 到達目標：　①専門職に求められる職業倫理について理解する。 ②保健医療をめぐる法律や医療スタッフに関する法律について理解する ③多職種連携・多職種協働の必要性について理解する。 ④地域包括ケアシステムについて理解する。 ⑤感染症関する知識をもち、具体的な感染予防対策をとることができる。		
授業計画 Course Content	１　職業倫理①　専門職に求められる職業倫理 ２　職業倫理②　身分法と倫理綱領 ３　多職種連携 ４　地域連携 ５　養成教育 ６　卒後教育 ７　感染症の現状と対策 ８　感染症の予防（実技）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（１００％）		
教科書 Textbooks	斉藤秀之　能登真一 編集：リハビリテーション管理学.医学書院		
備 考 Other Comments	適宜配布資料を使用し授業を実施する		
実務経験内容	宝田教員：作業療法士として臨床経験６年の経験及び専任教員５年の経験を有する。		

＝地域作業療法学＝

科目名 Course title	**地域作業療法学Ⅰ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	名倉 和幸	期間及び単位 Term/Credits	３年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives （予定）	本邦の総人口は 1 億 2,711 万人（2015 年時点）だが、65 歳以上の高齢者人口は 3,392 万人を数える。総人口に占める 65 歳以上人口の割合（高齢化率）は 26.7%であり、世界に類を見ない超高齢化社会である。総人口が減少するなかで高齢化率は上昇を続け、2060 年には高齢化率は 39.9%に達し、2.5 人に 1 人が 65 歳以上となる見通しである。 この様な環境の中、医療介護の持続可能性を高めるための施策として地域包括ケアシステムの構築が急がれるが、中でも介護予防・自立支援の観点から進められる軽度者支援については最重要テーマであり、全国さまざまな自治体でリハビリテーション専門職への期待が高まっている分野である。 本講義では、医療保険福祉の様々な分野において作業療法士が基本とすべき支援のあり方を整理し、その中でも地域在住高齢者への支援と地域支援事業・日常生活支援総合事業への関りという観点から作業療法士の将来展望を学ぶ講義としたい。		
授業計画 Course Content （予定）	全８コマ（1 コマ 90 分）の講義内容 １　保健医療福祉の各領域について ２　地域包括ケアシステムについて ３　介護保険制度について ４　介護保健施設の取り組みについて ５　地域支援事業と総合事業について ６　リハ職同行訪問アセスメントについて ７　短期集中予防サービスについて ８　軽度者支援の実際と作業療法について ※５～８の４講座をまとめて「これからの軽度者支援のあり方」として講義予定 ⇒同内容を 2 年生で受講しているが、厚生労働省や自治体などの最新の取り組みや状況を加えた内容で学習をおこなう。		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	特になし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	名倉講師：作業療法士として臨床経験２６年の経験を有する。		

科目名 Course title	**地域作業療法学Ⅱ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	寺村 肇・伊藤 健次郎・武平 孝子	期間及び単位 Term/Credits	３年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives （予定）	様々な領域での地域作業療法について講義を行います。		
授業計画 Course Content （予定）	（１５時間で行う） ＜精神障害領域＞ 精神障害領域での地域リハビリテーションの具体的な取り組みの紹介。 ケアマネジメントの考え方について講義。 講義① ・地域リハビリテーションの歴史的背景 ・ケアマネジメントの紹介 講義② ・地域リハビリテーションの取り組み ・地域リハビリテーションでの作業療法士の役割 ＜訪問リハ＞ 地域作業療法の実践や現状を訪問看護ステーションや就労支援事業所で勤務する OT、介護保険、障害福祉サービスを利用している利用者さんから聴き取る。 ワークショップ、参加型の講義を通して、学生さん自らで地域作業療法をデザインしてもらい、アイディアを共有し自分なりの地域作業療法のカタチを見出す。 講義①　「地域作業療法のカタチ①」 １.自己紹介、キャリア紹介 ２.各定義の紹介、日本地域作業療法学会、地域包括ケアシステムなどの説明 ３.アクティブの紹介 訪問リハ、デイ、アクティブクラブ、就労支援、求められること、 活動・参加応援事例集、心意気実践チーム等の紹介 ４.利用者さんの紹介　～疾患、障害のこと等を紹介～ 講義②「地域作業療法のカタチ②～ケースを実際に通して～」 １.利用者さんトークライブ ～ご病気のこと、障害のこと、お仕事のこと、訪問看護・リハに望むこと～ ２.質問タイム、運動麻痺のある左上肢の触診体験 ３.感想文作成 講義③「地域作業療法のカタチ③～地域で活躍する病院 OT から＆地域の社会課題とは～」 １.講師紹介　／２.活動報告　／３.地域の社会課題とは、ソーシャルキャピタルとは、 地域コミュニティづくりの事例等の話題提供 ４.感想文作成(A4 用紙) 講義④「地域作業療法デザイン～地域包括ケアシステムのなかでの OT の役割とは～」 １.グループワークのルールや流れ、LTP などのフレームワークの活用方法の説明 ２.グループワーク　／３.発表･報告　／４.まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（予定） ＜精神＞　２回の講義を踏まえて、地域リハビリテーションの課題についてレポート A4　１枚程度作成。 ＜訪問＞　グループワーク中で作成した LTP2 レポートを個別に完成させたものを A4 用紙１枚程度作成。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	**地域作業療法学Ⅲ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	**中野　里佳**	期間及び単位 Term/Credits	３年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	**１５時間／講義**	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 ourse Description・ Course objectives	〈発達障害領域の地域作業療法〉 発達障害を伴う子どもたちや大人とその家族が地域で生活する際の課題を知り、支えるための社会資源、制度などについて学び、作業療法士の責務を理解する。		
授業計画 Course Content	近年、医療ケアが必要な子ども、自閉症スペクトラム、学習障害、発達性運動障害などを伴う子どもが増えている。子どもたちやその家族が抱える問題、支援するための社会資源、制度について体系的に学び、ディスカッションを通して作業療法士の役割について考える。 １　地域作業療法（発達障害領域）概論 作業的公正、作業権、ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョンなど 作業療法実践に必要な理論や概念について理解する。 ２　０歳～未就学児の支援 新生児集中治療室（NICU)、新生児診療相互援助システム（NMCS)、 児童発達支援事業、保育所等訪問支援事業、訪問リハビリテーション等、 子どもや家族を支えるサービスと作業療法士の役割について学ぶ。 ３　学童期～思春期（小学生～高校生）の支援 放課後デイサービス、特別支援教育、個別支援計画、保育所等訪問支援事業など、 教育を受ける権利および地域参加を補償するための包括的な支援について理解し、 作業療法士の役割を学ぶ。 ４　青年期の支援 就労支援、自立生活支援、意思決定支援、 ACP（アドバンスケアプランニング）についての理解と作業療法士の役割を学ぶ。		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	グループディスカッション、筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	中野教員：作業療法士として臨床経験２１年の経験及び専任教員４年の経験を有する。		

科目名 Course title	**居住環境整備論**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	隅野　裕之	期間及び単位 Term/Credits	３年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives （予定）	住宅改修を中心に福祉用具の利用も併せて、生活環境調整の為の評価と実際を学び、より豊かな生活と活動範囲の拡大を目指した関わりができることを目的に学習する。		
授業計画 Course Content （予定）	（１５時間で行う） １　「障がい者・高齢者の機能特性と問題点・住環境整備の必要性」 ２　「住環境整備に必要な基礎知識（関連法規や建築に関すること）」 ３　「住環境の評価」 ４　「住環境整備の手順・方法（総論）」 ５　「疾患別住環境整備の手順・方法」 ６　「事例検討（ＧＷ・２症例程度）」		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（予定）レポート（５０％）、学期末試験（５０％）などによる総合評価		
教科書 Textbooks	作業療法学全書　改訂第３版　第１０巻　作業療法技術学２ 福祉用具の使い方・住環境整備		
備 考 Other Comments	授業に興味・関心が持てるように、また学生の自主的な学習意欲を引き出せるように、教材や授業方法の工夫に努めます。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験２３年の経験を有する。		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	**総合臨床実習Ⅰ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	３年次　前期／９単位
授業方法 Teaching Methods	４０５時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	総合臨床実習は、３年間の作業療法士養成課程の総決算的な意味を持ちます。当校教育目標としても揚げている「有資格者の作業療法援助と比べ、未熟で時間を多く必要としても、作業療法対象者をリハビリテーション目標に導くために、責任を放棄せず、最後まで全力を尽くし最善の解決策を講じることができる問題解決能力を身につける」ことを主目的としています。 また、前職業人として実習施設職員ならびに担当症例と望ましい人間関係を保ちながら、担当症例に対して必要な作業療法評価（全体像把握から問題点抽出・目標設定・援助計画の立案）、作業療法援助、作業療法再評価、作業療法援助の修正、作業療法目標達成までを学習します。 その際、担当症例の抱える様々な生活障害を、治療だけにこだわらず、あらゆる方法を担当症例と共に考え試みながら、どうすれば担当症例が主体的な生活者として、生活を送ることができるようになるか、その答えを作業療法士として導きだすことができるようにならなければなりません。		
授業計画 Course Content	臨地での実習を原則とするが、新型コロナウイルス感染症の状況により一部学内演習となることがある。 （臨地での実習については、各実習施設による）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①　実習前評価 ②　実習施設の評価 ③　実習終了後評価 上記①～③を以って総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験９年の経験及び専任教員２８年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験１５年の経験及び専任教員１０年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験７年の経験及び専任教員７年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験６年の経験及び専任教員５年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験２１年の経験及び専任教員４年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験８年の経験及び専任教員１年の経験を有する。		

科目名 Course title	**総合臨床実習Ⅱ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	３年次　後期／９単位
授業方法 Teaching Methods	４０５時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	総合臨床実習は、３年間の作業療法士養成課程の総決算的な意味を持ちます。当校教育目標としても揚げている「有資格者の作業療法援助と比べ、未熟で時間を多く必要としても、作業療法対象者をリハビリテーション目標に導くために、責任を放棄せず、最後まで全力を尽くし最善の解決策を講じることができる問題解決能力を身につける」ことを主目的としています。 また、前職業人として実習施設職員ならびに担当症例と望ましい人間関係を保ちながら、担当症例に対して必要な作業療法評価（全体像把握から問題点抽出・目標設定・援助計画の立案）、作業療法援助、作業療法再評価、作業療法援助の修正、作業療法目標達成までを学習します。 その際、担当症例の抱える様々な生活障害を、治療だけにこだわらず、あらゆる方法を担当症例と共に考え試みながら、どうすれば担当症例が主体的な生活者として、生活を送ることができるようになるか、その答えを作業療法士として導きだすことができるようにならなければなりません。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①　実習前評価 ②　実習施設の評価 ③　実習終了後評価 上記①～③を以って総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験９年の経験及び専任教員２８年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験１５年の経験及び専任教員１０年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験７年の経験及び専任教員７年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験６年の経験及び専任教員５年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験２１年の経験及び専任教員４年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験８年の経験及び専任教員１年の経験を有する。		

＝総合実習＝

科目名 Course title	**作業療法総合学習Ⅰ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	専任教員	期間及び単位 Term/Credits	３年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	講義概要：国家試験専門基礎分野の内容の復習と定着を過去問等の活用により図る。 グループディスカッションなども活用し、学生の自主性を促す。 到達目標：卒前教育として、作業療法士に必要な知識・技術を再確認し構築する。 国家試験合格を目標とする。		
授業計画 Course Content	【専門基礎分野】 ①　解剖学（骨・筋・神経） ②　生理学 ③　運動学（上肢帯・体幹・下肢帯） ④　神経内科学 ⑤　内科学 ⑥　精神医学 ⑦　整形外科学 ⑧　まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	国家試験対策に準ずる教科書		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験９年の経験及び専任教員２８年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験１５年の経験及び専任教員１０年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験７年の経験及び専任教員７年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験６年の経験及び専任教員５年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験２１年の経験及び専任教員４年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験８年の経験及び専任教員１年の経験を有する。		

科目名 Course title	**作業療法総合学習Ⅱ**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	専任教員	期間及び単位 Term/Credits	３年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	講義概要：国家試験専門分野の内容の復習と定着を過去問等の活用により図る。 グループディスカッションなども活用し、学生の自主性を促す。 到達目標：卒前教育として、作業療法士に必要な知識・技術を再確認構築する。 国家試験合格を目標とする。		
授業計画 Course Content	【専門分野】 ①　身体障害分野 ②　精神障害分野 ③　老年期障害分野 ④　発達障害分野 ⑤　装具学 ⑥　義肢学 ⑦　福祉用具 ⑧　まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	国家試験対策に準ずる教科書		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験９年の経験及び専任教員２８年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験１５年の経験及び専任教員１０年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験７年の経験及び専任教員７年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験６年の経験及び専任教員５年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験２１年の経験及び専任教員４年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験８年の経験及び専任教員１年の経験を有する。		